

2016 年度前期  
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 28 年 11 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

# 目 次

## 基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英語 I	キャンベル早川久美子	演習	1
2	キャリアデザイン	碓 ともみ	講義	2
3	国語表現法	宮川 久美	講義	3
4	人権と差別	馬越 かよ子	講義	4
5	心理学	小槻 智彩	講義	5
6	奈良とお茶	黄瀬 邦子	演習	6
7	奈良とお茶	中島 由紀子	演習	7
8	フランス語 I	浅野 友子	演習	8

## 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
9	医療的ケア II	水野 尚美	演習	9
10	介護概論 I	小木曾 真司	講義	10
11	介護予防	加藤 明日香	講義	11
12	グリーンプランニング I	寺田 孝重	講義	12
13	グリーンプランニング I	前川 良文	講義	13
14	コミュニケーション演習	碓 ともみ	演習	14
15	生活経営・管理の技法	北口 照美	講義	15
16	生活支援技術 I	武田 千幸	演習	16
17	生活レクリエーション	森永 夕美	講義	17
18	相談援助の基盤と専門職	武田 卓也	講義	18
19	相談援助の理論と方法	小川 和代	講義	19
20	点字	福田 佳久子	演習	20

## 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
21	カラーコーディネート論	中村 妙子	講義	21
22	公衆栄養学	岩橋 明子	講義	22
23	食事療法実習	須谷 和子	実習	23
24	食品衛生学実習	池内 ますみ	実習	24
25	食品学実験	三浦 さつき	実習	25
26	食料経済	湯崎 真梨子	講義	26
27	人体の構造と機能 I	毛受 真由美	講義	27

## 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
28	イラストレーション	松河 哲男	演習	28
29	ビジネス実務概論	上田 利博	講義	29

## 地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
30	音楽Ⅰ	大西 有紀	演習	30
31	音楽Ⅰ	奥田 尚子	演習	31
32	音楽Ⅰ	玉井 奈摘	演習	32
33	音楽Ⅰ	宮田 眞理	演習	33
34	音楽Ⅰ	山下 玲子	演習	34
35	音楽Ⅰ	吉田 直子	演習	35
36	音楽Ⅲ	中島(上杉) 倍代	演習	36
37	学習・発達論	別所 崇	講義	37
38	家庭科教育法	谷口 明子	講義	38
39	カリキュラム論	藤田 悦代	講義	39
40	教育原理	杉山 晋平	講義	40
41	教職入門	谷岡 義高	講義	41
42	児童館の機能と運営	池田 英郎	講義	42
43	社会科教育法	廣岡 正昭	講義	43
44	社会的養護内容	山口 直範	演習	44
45	社会福祉	潮谷 光人	講義	45
46	障害児保育	中島 順子	演習	46
47	生徒・進路指導の理論と方法	中園 大三郎	講義	47
48	総合演習(スポーツ)	杉島 尚徳	演習	48
49	造形美術	吉川 れい	演習	49
50	体育	大高 千明	演習	50
51	特別活動の指導法	中園 大三郎	講義	51
52	保育(健康)	安永 龍子	演習	52
53	保育表現演習Ⅰ	増井 啓子	演習	53
54	保育(表現・音楽)	本間 晶子	演習	54
55	理科教育法	園部 勝章	講義	55

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 英語 I **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8305b **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	10	-	-	1	-	1	1	8	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.91		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 9.1%	90分 程度 -	60分 程度 18.2%	30分 程度 36.4%	ほとんど していない 36.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 9.1%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 54.5%	ほとんど していない 36.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	3	4.18		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 18.2%	やや 高かった 36.4%	適切 であった 36.4%	やや 低かった -	非常に 低かった 9.1%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.45		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 9.1%	注意 していた 54.5%	ある程度 注意 していた 18.2%	あまり 注意して いなかった 9.1%	全く 注意して いなかった 9.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.82		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	4	3.55		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.09		■				

## 1 授業の概要、特徴等

基本的な英文法を体系的に学び、250字程度のエッセイを読む。また、近年、社会全般における外国語学習への関心も高まり、英語検定等での評価も広く活用される傾向にあることも考慮して、自己評価、学習指標の判断材料として、英検準2級問題も取り上げた。

## 2 アンケート結果に対する見解

学生の意識のなかに、まだ事前学習、事後学習への実感あるいは、語学の学びに必要な絶対的時間量という捉えが必ずしも浸透しているとは言いがたい。また、学生間の参加意欲、レベルの開きを感じさせるクラスでもあった。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

これまで2段階でリーディング文の総字数を少なくしてきており、現在、見開き半ページで250字程度のものを扱う。平易な文に慣れるということと、基本文法の再確認と整理を通しての基礎基本を固める方針を進めた。したがって、課題等の提出での目標達成を評価した。

## 4 授業改善の方法

基本的な語彙量の不足を補うこと、英語への関心や何らかの自信を引き出すのに配慮してきたが、まさに多様な学生が参加しているなかでの授業展開には、さらなる工夫があると実感する。語学は自由な発言ができる雰囲気、環境が重要であるが、それを理解させた上での、授業参加への姿勢づくりが必要である。ただ座席指定も一つの選択肢であると考えられよう。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 碓 ともみ **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : キャリアデザイン **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8190abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 111名 **回答者数** : 94名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	94	-	-	-	7	25	7	55	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.95		◇					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 19.1%	90分 程度 12.8%	60分 程度 27.7%	30分 程度 22.3%	ほとんど していない 17.0%	無回答 1.1%		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 8.5%	90分 程度 10.6%	60分 程度 21.3%	30分 程度 34.0%	ほとんど していない 24.5%	無回答 1.1%		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.94		◇					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.7%	やや 高かった 28.7%	適切 であった 52.1%	やや 低かった 6.4%	非常に 低かった 1.1%	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.19		◇					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 18.1%	注意 していた 51.1%	ある程度 注意 していた 24.5%	あまり 注意して いなかった 5.3%	全く 注意して いなかった 1.1%	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.07		◇					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.85		◇					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.16		◇					

## 1 授業の概要、特徴等

将来進むべきキャリアを主体性に考え社会に出る準備として、必要である社会人基礎力を身に付け、現在の労働市場・雇用形態や「働く意義」を学ぶ。授業はアクティブラーニングを中心にビジネスマナー、自己・他者理解・職業理解、キャリアプランニング等を学ぶことによって、自律的にキャリアをデザインしていく。

## 2 アンケート結果に対する見解

高校生を終えてすぐに社会に出る姿を思い浮かべることにかかるようだ。自分のことを主体的に考えることに慣れずに戸惑うことが多いことを感じた。全体的に温度差が感じられた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

自己・他者・社会を知り、自律的に自己のキャリアを考え抜き計画できることを授業の目標とし、「何をすべきなのか」を見つけてせるキャリアプランニングが実際に描けることを目標達成とする。成績評価はシラバス通りの評価基準のもと単位を認定した。また、評価基準・単位認定の見解は初回の授業等で知らせている。

## 4 授業改善の方法

授業の出席率はよいが、各授業の振り返りが出来ているかを知る為に、来年度より「振り返りシート」の実施とプレゼンテーションや情報収集力の向上の仕方も教えていきたいと考えている。また、より身近な現在の労働市場や雇用問題もとりあげることにする。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 官川 久美 **職名** : 教授 **所属** : 全学  
**科目名称** : 国語表現法 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8110ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学 年				学 科 ・ コー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	58	-	-	-	-	2	-	56	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 3.4%	90分程度 1.7%	60分程度 8.6%	30分程度 32.8%	ほとんど していない 53.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 3.4%	90分程度 -	60分程度 8.6%	30分程度 36.2%	ほとんど していない 51.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.74		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.3%	やや 高かった 24.1%	適切 であった 58.6%	やや 低かった 3.4%	非常に 低かった 1.7%	無回答 1.7%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 8.6%	注意 していた 51.7%	ある程度 注意 していた 36.2%	あまり 注意して いなかった 1.7%	全く 注意して いなかった 1.7%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.65		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.65		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.03		■				

## 1 授業の概要、特徴等

## 2 アンケート結果に対する見解

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

## 4 授業改善の方法

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学  
**科目名称** : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8105ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 61名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	39	19	-	-	18	32	7	1	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.02		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.4%	90分 程度 1.7%	60分 程度 20.7%	30分 程度 39.7%	ほとんど していない 34.5%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.7%	90分 程度 3.4%	60分 程度 19.0%	30分 程度 32.8%	ほとんど していない 43.1%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.33		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.3%	やや 高かった 24.1%	適切 であった 62.1%	やや 低かった 3.4%	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.14		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 25.9%	注意 していた 44.8%	ある程度 注意 していた 22.4%	あまり 注意して いなかった 6.9%	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.17		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.93		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.18		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

人権や差別を生み出すメカニズムについて、基本的な視点や個別課題の両方からアプローチし、人権問題に対する理解と認識を深める。毎時間の授業で、授業内容や授業で気づいたこと等をコミュニケーションカードにより提出させ、次回に学生たちの気づきの内容から特徴あるものを提供して、他者の考えから新たな発見等も含めて、視野を広げさせる。また、他者との会話やグループ討議を、意見表明の場とするとともに討議の内容を発表し、他者からの評価を受ける。

## 2 アンケート結果に対する見解

表面的な知識だけでなく、詳しく学ぶことを通して、様々な人権について深く知り、差別や人権問題について自分の考えを見出すことができたや、人権問題を身近なこととして捉え、先入観や固定観念など差別を生み出すメカニズムについて気づき、自らがどのようにすべきかを考えることができたなど、多くの学生にとって、本授業の目標とする成果が出ていると思われる。一方、これまでに人権や差別については既習済みとする学生に対して、身近な問題に人権意識の高揚を図る姿勢を培えるよう工夫が必要であると考えられる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深め、人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会が何をすべきかを考察する力を身に付けて実践的な行動に踏み出せることを目標とし、自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。受講態度20%、課題及びコミュニケーションカード20%、科目修了レポートとまとめ発表60%により総合的に評価して、単位認定する。

## 4 授業改善の方法

他者との対話やグループ討議と発表、またクラス全員の前の絵本の朗読を通して自分の考えを伝える力のトレーニングなど、授業に様々な手法を取り入れることにより、自尊感情を育み、人権問題を身近なこととして捉えるとともに、差別を生み出すメカニズムに気づき、自らの意識や行動を考えさせることができたと思うが、さらに、表面的な知識だけでなく、身をもって行動できるような浸透力のある授業を工夫したい。



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 小槻 智彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 心理学 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8125 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 57名 **回答者数** : 43名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	39	4	-	-	-	15	6	21	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.3%	90分 程度 -	60分 程度 2.3%	30分 程度 14.0%	ほとんど していない 81.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.3%	90分 程度 -	60分 程度 2.3%	30分 程度 14.0%	ほとんど していない 81.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.14		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.0%	やや 高かった 37.2%	適切 であった 51.2%	やや 低かった 2.3%	非常に 低かった 2.3%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.88		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 9.3%	注意 していた 34.9%	ある程度 注意 していた 44.2%	あまり 注意して いなかった 11.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.70		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.81		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.53		■				

## 1 授業の概要、特徴等

心理学の基礎知識の習得および心理学的視点の理解、さらにそれらを用いて日常的な問題について考えることを目標とした授業を行った。特徴としては、(1) 受講生が身近な例から考えられるように実践や体験を取り入れた点、(2) 受講生の理解を促すためにビデオ教材も多く使用した点、さらに(3) 学習の定着を図るために適宜復習問題を実施した点である。

## 2 アンケート結果に対する見解

多くの受講生にとって授業のレベルや教材は適切なものであり、新しい知識の習得や関心を高めるものであった。授業のレベルの感じ方がわかるのは受講生のももとの知識や経験の差があるためある程度は止むを得ないと考えられる。また、受講者数が多い講義形式の授業であったため、勉強しやすい雰囲気が乱れやすくなっていた。授業外の学習時間の少なさは、まとまった課題やテストを課していなかったことによると思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は(1) 心理学の基礎知識の習得、(2) 心理学的視点の理解、(3) 学習した知識や考え方を生かした日常的な問題の再考であった。各回の感想、定期試験、アンケートの結果から概ね達成できたと思われる。成績評価は①授業内小レポートと②筆記試験(選択問題による基礎知識の確認、記述問題による日常的な問題の再考)から行い、①②を同配点として、点数を満たしている受講生に単位認定を行った。

## 4 授業改善の方法

全体的な内容や使用教材は概ね現行の通りでよいと思われるが、受講環境の改善として、受講生が多い場合には自由記述にもあったようにマイクを使用する。また、授業外の学習時間を確保するために、テスト形式の復習問題またはまとまった課題を出すようにする。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 黄瀬 邦子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	16	2	-	-	1	8	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 72.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 72.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.83		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 11.1%	適切 であった 72.2%	やや 低かった -	非常に 低かった 5.6%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.28		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 11.1%	注意 してい た 33.3%	ある程度 注意 してい た 27.8%	あまり 注意し ていな かった 22.2%	全く 注意し ていな かった 5.6%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.50		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.39		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.33		■				

## 1 授業の概要、特徴等

○「奈良とお茶」の授業目的は、奈良で学ぶ学生としてお茶に関する教養を身に付け、社会人になった際に役立つこととしている。15回の授業を2名の担当教員が分担し①奈良や茶に関する知識、社会人になった時の役立て方について②お茶の作法と立ち居振る舞いについての内容とした。○講義に加え体験や実習を行うことにより、学生に興味と理解の醸成を促した。

## 2 アンケート結果に対する見解

○アンケート結果は、大学全体と比較して「奈良とお茶」の評価は非常に厳しい結果であり、今後の授業の中でこの結果を活かす必要がある。授業のレベルについては適切が72.2%と回答していることから、今後学生の授業態度や教材の工夫、説明の仕方への配慮を行うこととする。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

○「奈良とお茶」の授業に係る試験結果はすべて65点以上となった。○試験は全体で2回実施した。私の担当授業「お茶とお菓子のコラボレーション」ではお茶種とお菓子の取り合わせについてアンケート形式で実証をおこなった。学生は自分のし好を丁寧に検証した。また、最後の授業では学生主体の「お茶会」を実施したがその際の態度についても成績の評価対象とした。

## 4 授業改善の方法

○この授業の担当は3年目となり、学生が授業の内容を理解する程度と目標については試行錯誤を行ってきている。がより学生が興味を持ち積極的に受講するように工夫をしていく必要がある。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 中島 由紀子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	16	2	-	-	1	8	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 72.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 72.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.83		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 11.1%	適切 であった 72.2%	やや 低かった -	非常に 低かった 5.6%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.28		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 11.1%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 27.8%	あまり 注意して いなかった 22.2%	全く 注意して いなかった 5.6%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.39		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.33		■				

## 1 授業の概要、特徴等

この授業は、奈良の事を学ぶ事、全体的なお茶の知識、奈良とお茶が関係している事、茶道の時間で構成されていた。生活や将来に活かしていけるよう、実習を多く用いた。生徒の受講目的が多かったのは茶道を体験してみたいという声だった。その他お茶の淹れ方や飲み比べ、生葉から釜炒り茶を作る等生徒の生き生きとした姿が見られた。一方座学では授業に集中しない生徒も多く、授業進行を躊躇する事も多々あった。

## 2 アンケート結果に対する見解

昨年に引き続き、総合評価⑩の、「この授業は自分の将来に役立つと思いましたか」の問いに対して、全く思わない生徒が11%、多数がどちらとも言えない44%と解答しているのが遺憾である。にも関わらず選択設問この授業の内容から学外実習で実践しようと思う内容が得られましたかの問いには、そう思う16.7%、ある程度そう思う44.4%で、半数以上の生徒が近未来に役立つそうだ。まだ現在と未来の繋がりがイメージできていないようである。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

始めは奈良県の事を生徒と一緒に調べるところからスタートしたが、調べ物をした事がない生徒がほとんどで、調べ方や単位の見方という一般常識的な部分から教える事となったが、最終的には確認テストで座学の部分はきちんと解答できている生徒がほとんどであった。煎茶を淹れる事も、抹茶を頂く事も皆一通りよく習得できていたように思う。その他授業態度や、将来どのように役立てるのかの発表内容、小テスト等で総合的に判断した。

## 4 授業改善の方法

自由記述に「授業がダラダラしすぎている」とあるように、決まったテキスト等がある訳ではないのでどうしてもメリハリがなく、授業進行しづらい。教科書学習に慣れてきた一回生がほとんどなので、毎回のプリントではなく、ある程度流れを追った教科書形式のものを使用した方が良いのかも知れない。また、実習に限って欠席する生徒や、実習に対する感動が少ない生徒が多いので、教室を変えずに座学と同じ教室である程度実習を行うのも有効と感じる。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学  
**科目名称** : フランス語 I **科目群** : 基礎教養科目  
**授業コード** : 8330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	8	-	-	-	1	1	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.25		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 37.5%	ほとんど していない 62.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.38		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 37.5%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 12.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 75.0%	ある程度 注意 していた 12.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.75		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■				

## 1 授業の概要、特徴等

会話表現を練習しながら、初級文法の前半を学ぶ。概ね教科書に沿って授業を進めるが、学生の興味・関心によっては、別にプリント等副教材を活用することもある。今年度は、学生の自発的な表現を促す形で、単語を補いながら、できるだけ自由作文に近い課題を重ねて実践している。

## 2 アンケート結果に対する見解

今年度は受講生の意欲が高く、真面目に取り組んでくれたこともあって、密度の濃い良い雰囲気の授業を行うことができた。授業というものが教員と学生の二者の相互作用で成り立っていることを痛感している。少人数であったことで、個別指導に近い形で授業を進めることができたことも幸いであった。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価については、小テスト・課題等を小さく課し、提出物の評価を積み重ねることによって最終的な成績とした。授業で学んだことが理解でき、応用できるかどうか、自分で考え、言いたいと思う内容を、手持ちのフランス語で適切に表現できているかどうか、が評価の基準となる。

## 4 授業改善の方法

良い授業を行うためには、何よりも学生の動機付けが大切である。大方の学生にとっては、まとまったフランス語に初めて接する機会となると思うので、まず、好感の持てる教科書を選定すること。例文・説明が適切で、できれば自学自習のできる教科書が望ましい。さらに、学生の持っている興味・関心に応じていけるよう、教員が内容の豊かな人間になれるよう、努力することである。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 水野 尚美 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 医療的ケアⅡ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1575 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 17名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	17	-	-	17	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態 度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.18		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 17.6%	90分 程度 29.4%	60分 程度 23.5%	30分 程度 11.8%	ほとんど していない 17.6%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 23.5%	90分 程度 23.5%	60分 程度 23.5%	30分 程度 17.6%	ほとんど していない 11.8%	無回答	-
授業 内 容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.18		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 35.3%	やや 高かった 47.1%	適切 であった 17.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.47		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 17.6%	注意 していた 64.7%	ある程度 注意 していた 17.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.65		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.88		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.18		■				

## 1 授業の概要、特徴等

医療的ケアⅠの理解の上に、喀痰吸引及び経管栄養について、医療職との連携のもとで、安全・適切に実施できるように、必要な知識技術を修得する。知識の確認後、喀痰吸引についての知識にもとづき、シミュレーターを用いて一人で喀痰吸引ができるように演習を行う。

## 2 アンケート結果に対する見解

医療的ケアの科目は、「講義」部分を実時間で50時間以上実施したうえで評価を行い、修了認定を受けた後に演習と規定されている。そのため、医療的ケアⅢの導入部分まで「講義」部分となってしまう。しかし、実際には、作業が伴わない限り理解が難しい「講義」内容でもある。それが、⑥から⑧にかかる『授業の進め方』の結果の低さにつながっているのだと思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生全員が授業目標を達成できているとは言い難い。成績評価や単位認定については、授業点や小テストを含めた筆記試験の点数などをもとに、厳正に評価した(平常点+筆記試験=100点)。<平常点>①+②×60% ①受講姿勢…100点から欠席回数×10点を減点 ②課題の提出及び完成度…100点から未提出回数×10点と指示したポイントの未記入箇所×5点を減点 <筆記試験>100点満点×40%

## 4 授業改善の方法

昨年度よりもシミュレーターを使いながらの説明時間を増やしたが、使用方法をもっと改善する必要があると考える。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 介護概論 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1205 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	14	-	-	-	14	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.43		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.1%	60分 程度 21.4%	30分 程度 35.7%	ほとんど していない 35.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 7.1%	60分 程度 35.7%	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 14.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.79		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 71.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.79		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 42.9%	ある程度 注意 していた 7.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	4.79		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	3	4.43		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.93		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

グループワークを多く取り入れ、視聴覚教材の視聴や文献の朗読など、感性に働きかけられるような授業を意識し、介護の事について深く考え共有することをねらいとしている。また、教科書学習に偏り過ぎず、介護現場でのリアリティのある事例を基に、自分なりに考える機会となることを期待している。そのため記憶できることよりも思考することに評価をおいている。

## 2 アンケート結果に対する見解

初回授業時に、授業の概要や特徴等についての説明をした上での受講であるため、自由記述の内容に反映したと考えられる。「授業を受ける前に、1週間当たり平均でどれくらい事前に勉強や課題に取り組みましたか。(自己レッスンを含む)」について、思考をねらいとしている上では、新聞記事やニュースなどの題材を活用した課題を提示できると効果的であったと反省する。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実際に、授業展開のねらいとして設定していたことが、どの程度達成できているのかを評価できる基準があいまいであるため、アンケート結果からは推測できないと言える。また、介護に関する思考だけにとどまらず、知識としての専門力を養うことを忘れてしまっは本末転倒であるため、細かい授業計画の検討が必要と感じている。

## 4 授業改善の方法

授業計画の検討 使用教材の吟味 課題の適切な設定 理解度や思考力を図れるツールの模索 (小テストや個人発表等)

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 加藤 明日香 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 介護予防 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1225 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	15	-	-	15	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.40		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.60		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.40		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.33		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.47		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

授業は主にプリント(穴埋め形式)を使っている。2015年後期から板書ではなくパワーポイントを使用し、適宜画像や映像を取り入れている。他にもビデオや実際の道具なども使いながらイメージがわかりやすいように介護の現場での体験などを伝えながら行っている。授業内容としては介護予防に携わる職業の理解や、主に老年期における障がいや疾患、活用される福祉用具などの理解を深め、チームアプローチの重要性を学習してもらう。また、介護予防の意味や介護保険の内容も理解できるように授業を行う。

## 2 アンケート結果に対する見解

今年は社会人経験者が多く、生徒のレベルも高かったように感じる。2015年後期よりも少し難易度を上げてみたが、もう少しリハビリに特化した内容でもよかったように感じる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の達成目標は「介護予防に携わる職業の理解や、主に老年期における障がいや疾患、活用される福祉用具などの理解を深め、チームアプローチの重要性を知ること。」また、「介護予防の意味や介護保険の内容も理解すること。」である。成績評価基準は出席率、授業態度と提出物とテストで行う。

## 4 授業改善の方法

集中して授業が取り組めるように、授業内容で難しい用語や難しい内容にならないようにする。授業内容についてこられない生徒については小テストの結果などから拾い上げ、個別に対応できるように配慮していきたい。また、求めるレベルの高いものについても個別に対応するべきかと考える。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	8	-	-	-	8	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.38		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 12.5%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 12.5%	60分 程度 37.5%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 25.0%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.88		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 50.0%	やや 高かった -	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.75		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 87.5%	注意 していた 12.5%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00		■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.88		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■					

## 1 授業の概要、特徴等

グリーンプランニング I の中で、筆者は実習圃場を使用した植物管理とそれを基にした植物および実習圃場の理論の講義を行った。実習を伴うものなので、気象などにも左右されるが、学生側もそれを理解し、自主管理を行なうなど効果が認められた。

## 2 アンケート結果に対する見解

今回学生数が少なかったため、親密に接することができ、学生の理解度も的確に把握できたので、講義がすずめ易く感じていたが、学生アンケートにも、そのことが反映されていると思われた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

全講義にレポートを課しており、実習圃場観察や植物への興味の喚起に役立てると共に、全てのレポートに評価を行うことによって単位認定を行なった。

## 4 授業改善の方法

今回の学生アンケートを見る限り、筆者の意図に沿った効果が認められるので、継続していきたいと思う。また、今回行なわれなかったグリーンプランニング II における施設実習を2回生の時希望者には実施したい。



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 前川 良文 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	8	-	-	-	8	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.38		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 12.5%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 12.5%	60分 程度 37.5%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 25.0%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.88		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 50.0%	やや 高かった -	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.75		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 87.5%	注意 していた 12.5%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	5.00		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.88		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■					

## 1 授業の概要、特徴等

福祉と園芸を学び、人々に対する効果など素晴らしい魅力と草花や野菜など、植物の栽培管理をとおして多くの人々が心の安らぎや健康、生きがいを感じる園芸の特質を人々の生活の質を高める為の実習等を行い、障がい者や高齢者などの介護やリハビリのために積極的に活用する園芸療法や園芸福祉を具体的に学ぶとともに、福祉社会のニーズに応える産業人を育成し、農園芸分野における障がい者就労支援についても知識と理解を得る。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講態度については良かった。内容に対しては理解レベルの差がかなり有ったので事例を増やし理解し易くなる授業に配慮し課題やレポート提出による理解度チェックを行った。進め方については寺田先生と調整し学生が混乱しないよう状況確認を毎回確認し授業を進めた。園芸福祉に興味を持った学生も多くなり、初級園芸福祉士の資格・取得希望者も出てきた。次年度も総合評価で高い評価を得る努力をしていきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度20% 表能力20% 筆記試験、レポート60% 事前学習が出来るような環境と流れを整えたい。

## 4 授業改善の方法

授業改善の方法として農園芸と福祉を通じて人間教育や信頼教育の講義や実習・ワークショップを行い、植物を育てるプロセスの中で命を育む難しさ、優しさ、喜びなどを感じる感性豊かな人材、そして相手を尊敬、信頼し社会人としての基本的マナーや身構え、心構えなどを持った人材、又コミュニケーション力を身につけて働くことの「思い」(バクトルやイメージ、そして意味)を持って社会で貢献できる人材育成を目指したい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 碓 ともみ **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : コミュニケーション演習 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1105 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 61名 **回答者数** : 57名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	57	-	-	-	14	36	7	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.09		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.5%	90分 程度 3.5%	60分 程度 10.5%	30分 程度 12.3%	ほとんど していない 70.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.5%	90分 程度 5.3%	60分 程度 8.8%	30分 程度 19.3%	ほとんど していない 63.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	2	3.93		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 19.3%	やや 高かった 26.3%	適切 であった 50.9%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.8%	無回答 1.8%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.11		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 26.3%	注意 していた 43.9%	ある程度 注意 していた 26.3%	あまり 注意して いなかった 3.5%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.16		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.02		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.30		■				

## 1 授業の概要、特徴等

コミュニケーションには、言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションがあり、他者に思いを伝えていくためにはどちらも必要であり、多角的に他者への伝え方・聴き方を学ぶ。特別講義として漫才の構成作家を講師としてお招きし、実際に即席漫才をつくり披露する。

## 2 アンケート結果に対する見解

多くのコースが集まった授業であるためにグループワークが難しかった様である。何かをつくり上げ表現することに恥ずかしさを感じている学生が多い。プレゼンテーション時に欠席するのもその表れだと推測する。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

グループで課題について考えプレゼンテーションを通して、傾聴力・自己表現力また協調性の醸成が授業の目標達成とする。成績評価基準・単位認定はシラバス通りに行った。

## 4 授業改善の方法

受講生の人数が多く、各グループのプレゼンテーションに多くの時間がかかる。今後更なる工夫が必要である。また次回よりコミュニケーションのスキル方法を取り入れる。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 北口 照美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 生活経営・管理の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1320 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	18	-	-	17	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.22		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 11.1%	90分 程度 5.6%	60分 程度 38.9%	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 33.3%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 5.6%	90分 程度 5.6%	60分 程度 38.9%	30分 程度 27.8%	ほとんど していない 22.2%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.17		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 5.6%	やや 高かった 22.2%	適切 であった 61.1%	やや 低かった 5.6%	非常に 低かった 5.6%	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.22		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かつ た 22.2%	注意 してい た 50.0%	ある程度 注意 してい た 22.2%	あまり 注意し てい なかつ た 5.6%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.33		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.89		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

授業概要は、家庭生活の多様な側面を理解すること、生活を維持し管理・運営する能力を身につけること、高齢者の生活特性を理解すること。人々の生活の過去と振り返り、現在を観察し、未来を考えることで、生活を理解するようにしている。自分自身の生活が、他の多様な人々のとの生活と絡み合っていることをも知ることで、高齢者への配慮にもつなげる内容としている。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講生の多くは受講態度もよく課題にもまじめに取り組んでいた。講義内容は日常生活に直結することであり、実際の生活を観察して、科学的に考え理解しようとしている様子がうかがえた。自分の生活とともに、他の人の生活、将来の生活をも考もえることに気づいたと感ぜられる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は、家庭生活を理解し、生活経営に必要な事柄を理解すること、そして適切な援助の知識を持つことである。成績の評価基準は、生活経営・管理に必要な事柄の理解度である。単元ごとのまとめのテストやレポートを課し、最終にはまとめの課題を実施する。基本的な事柄を理解することが出来ていると判断された場合、単位を認定している。

## 4 授業改善の方法

板書や図表のプリント配布を中心に進め、学生が自分の手で書くことで学習が深まるようにしている。自分自身の日常生活と関わる講義内容であるため、講義の単元毎に、実体験に基づいて理解が深まるように小テストの内容を工夫していきたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 武田 千幸 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 生活支援技術 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1305a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	14	-	-	-	14	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	-	3.93	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 21.4%	90分程度 -	60分程度 14.3%	30分程度 35.7%	ほとんど していない 28.6%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 28.6%	90分程度 -	60分程度 28.6%	30分程度 28.6%	ほとんど していない 14.3%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.57	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 14.3%	やや高かった 64.3%	適切であった 21.4%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.38	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要は なかった	注意する必要は なかった 35.7%	注意していた 50.0%	ある程度 注意していた 7.1%	あまり 注意して いなかった 7.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	4.07	■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.50	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.86	■				

## 1 授業の概要、特徴等

生活支援技術 I では、介護実習室や入浴実習室を使い、基本的な生活支援技術を習得するための授業を行っています。単元ごとに講義を行い、その後演習へ移ります。ベッドメイキング、体位変換、移乗（ベッド、車椅子間）、移動（車椅子、杖）、着脱、食事などにおける生活支援技術を習得できるよう、プログラムを組んでいます。授業では、介護者役と利用者役の両方を体験するようにしています。介護者だけでなく利用者役も学生が行うことで、介護を受ける側の気持ちを常に考え、体験から学んだ技術の応用ができるようになることをめざしています。

## 2 アンケート結果に対する見解

授業のレベルが適切だったか、教員は学生の理解度を配慮しながら授業を進めていたかという問いに対しての答えから、よく理解できないうちに授業が進んでいき、難しいと捉えた学生が多かったのかと考えます。今年の受講学生について、「わからない」と言えない、何がわからないかわからない学生が特に多かったのだと思われます。学生の理解度を確認しながら進めていたつもりですが、確認の方法を変えていかなければいけないのだと思います。また、グループ全体として演習が成り立っていても、個人として理解できていないことが多いのだと思います。個人のレベルの確認もさらに必要だと考えます。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内で利用者役を行うことで、介護を受ける側の気持ちを考える機会を持つことはできたと思われま。しかし、その場限りになってしまうことが多いように思われるため、今後はその継続について考えていく必要があると思われま。成績評価、単位認定は平常点、知識理解度、技術習得度の3つで判定しました。技術習得度に関しては2つの事例問題を提示し、くじ引きによりそのうちの1つの事例を実技試験として行い、判定しました。利用者役に対し、尊厳をもって関わるのができたか、安全に配慮できたか、適切に基本的な介護技術を実施できたか等チェックリストをもとに判断しました。

## 4 授業改善の方法

一つのベッドを約3名で使用しており、授業中の練習時間は十分に取れるにも関わらず、一度体験すればそれで終わりという雰囲気になってしまいがちです。何度も何度も繰り返し練習してこそ技術は習得できることをもっと学生に伝え、食欲に演習する雰囲気を作っていきたいと思いま。授業で行ったことの記憶があいまいになり、翌週の授業の時にはすでに忘れてしまっているということが目立つので、毎回の授業がつながり、そして他の授業や実習につながっていくようにするためにも、授業内容を振り返ることができるようノートをとるように指導することや、プリントを配布する等、学生の目に見える形で学習内容を残していく必要が今以上にあると思うため、実施していきたいと考えます。現在の学生の状況に合わせて、学生一人ひとりに指導を行い、どのように練習すればよいのか、どのようなことを考えながら練習していくことが望ましいのか等、基本的な受講姿勢から個別の指導を行っていきたく考えます。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 森永 夕美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 生活レクリエーション **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1220 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	18	-	-	18	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.39		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 16.7%	90分 程度 27.8%	60分 程度 16.7%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 16.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 22.2%	90分 程度 33.3%	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 11.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 22.2%	適切 であった 77.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 11.1%	あまり 注意して いなかった 5.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.39		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.56		■				

## 1 授業の概要、特徴等

レクリエーションの意味を理解し、介護職が行うレクリエーションの姿勢や立場、安全管理について学習する。利用者のニーズに合わせた根拠ある指導や支援の方向性を示しながら、実践を交えてレクリエーション技術を身につけていく。実際に前期半ばに実習に行き、レクリエーションを実践する課題があるため、それに向けて事前準備できるような要素も含んだ取り組みをしている。

## 2 アンケート結果に対する見解

実習や就職先で使えるようなレクリエーションを紹介したので直接的に役に立ち興味を持ってたと考える。ただ、学内での模擬実践は実際の高齢者相手ではないため、様々な障がいや加齢に対して配慮に気づきにくい面もあり、実習先で戸惑ったと考える。利用者によるアレンジの方法や工夫なども伝える必要がある。講義ではパワーポイントやDVDなどを使い視覚的に伝えられたのは良かったが、実践では机の移動が必要など難しい面があり教室は検討の必要がある。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は達成できたと考える。評価はグループワークへの参加姿勢や企画の実践や作品の完成具合から総合的に判断した。また、定期試験として施設におけるレクリエーションの意義と課題を問うレポート試験を実施した。

## 4 授業改善の方法

認知症や障がいのレベルによって同じレクリエーション内容でも、アレンジや工夫が必要な点などを指導し、よりニーズに応じたレクリエーション実践ができるようにする。教室も検討する。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 武田 卓也 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 相談援助の基盤と専門職 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1705 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	12	-	-	-	8	-	-	4	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	◇
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.08		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 25.0%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	◇
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.08		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 8.3%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった 8.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	◇
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.25		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.67		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.33		■				

## 1 授業の概要、特徴等

シラバスに記載したように、社会福祉士及び介護福祉士法を概観し、社会福祉士の役割と意義について理解し、ソーシャルワークの必要性の背景を現代社会と地域生活から学ぶ。また、ソーシャルワークの理念、特に人間の尊厳、価値、倫理、知識、技術、自己決定、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーションと社会包摂等に関して学び、総合的・包括的な援助、権利擁護、他職種連携等について理解することを目指すことを目的としている。本授業での特徴は、理論的な講義であるために視覚教材を利用して授業展開を進めた。

## 2 アンケート結果に対する見解

アンケートから授業前後の課題学習を再検討すること、問題意識を高めることに取り組みたいと考える。昨年度に比べ、授業前後の課題等は出しているが、それでも授業外の学習時間を学生が十分とれていない。そのために問題意識等が育っていないと考えられる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標を達成するために、講義、個別・グループワークを活用しながら展開し計画通り進めることはできた。また、学生の授業目標達成度について、15コマの中間時点で小テスト(定期試験の10%:学生に説明しシラバス内容の変更を伝え実施した)、最終試験の結果から概ね授業目標には近づけたと考える。成績評価基準と単位認定については、シラバスにある通り、定期試験(50%)、授業態度(20%)、レポートの提出と発表(30%)の各項目ごとの評価とそれをまとめた総合評価を行い、単位認定には総合評価を用いた。

## 4 授業改善の方法

学生が興味関心を持つような授業の工夫と、授業態度姿勢について指導し、学習する学生が授業中に集中できる環境をつくる。また、課題として考える課題を設定し、それをもって参加型の授業展開を行いたい。さらに、学生の理解を高めるために小テストを実施し、学生自身が自分の理解度を確認できるようにしたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 小川 和代 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 相談援助の理論と方法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1710 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.60		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.80		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.60		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意し てい なかつた	全く 注意し てい なかつた	無回答	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.60		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.80		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.80		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

基本的に授業計画の内容にそって、学生主体の参加型学習をすすめた。そのため、事例を活用し、学生自身が実感を持って理解できるよう努めた。到達目標としては、相談援助の基本となる理論を理解し、利用者と利用者をとりまく環境について社会福祉士としての支援方法を身につけること。また、本講義で学んだ理論や方法を実習や演習の場で活用できるよう、継続的な学びの土台作りをすることにおいた。

## 2 アンケート結果に対する見解

学生が主体的に取り組める参加型学習を進めた点や、保育の現場におけるソーシャルワークについて事例を通して授業を進めた点が、単なる知識としてではなく、学生の関心と理解に繋がったと感じる。また、面接場面の演習などは実践をイメージすることと共に、その難しさを感じるきっかけになったと感じた。5名という学生数の少なさと、一定の関係形成がなされた2年生が対象であることから、グループ討議の難しさを感じ、積極的な活用を控えた。しかし、学生の希望があったことから、今後検討していきたいと考えている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

相談援助の基本となる理論を理解し、支援方法を身につけるという到達目標に対しては、援助過程の展開を理解することはできた。評価については、試験の結果と合わせて(70%)、出席や授業時の演習への参加などの取り組む姿勢(30%)を対象とした。結果、受講者全員の単位取得を認めた。

## 4 授業改善の方法

今後の課題としては、事例や事例に基づく演習等を活用した授業により、より学習意欲を高める事と合わせて、得られた学びを共有する機会として、また、学生が主体的に授業に取り組む場面を増やすためにも、グループ討議を一層取り入れることが必要であると考えている。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 福田 佳久子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 点字 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目  
**授業コード** : 1256 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	16	-	-	16	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.94		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 12.5%	90分 程度 18.8%	60分 程度 31.3%	30分 程度 18.8%	ほとんど していない 18.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 18.8%	60分 程度 37.5%	30分 程度 18.8%	ほとんど していない 12.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 31.3%	やや 高かった 31.3%	適切 であった 37.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 31.3%	注意 していた 18.8%	ある程度 注意 していた 43.8%	あまり 注意して いなかった 6.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.44		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.75		■				

## 1 授業の概要、特徴等

点字を読むことと、点字を書くことを平行して学ぶ。点字の表記の基本的ルールを覚えて、点字が読めるようになること、点字で簡単な手紙や案内文を書けるようになることが目標である。

## 2 アンケート結果に対する見解

授業のスピードが速いと言った意見がいくつかあり、これがレベルが高かったという評価になっているのだと思う。点字は特殊な文字のため、習ってすぐに役立つものではないので、アンケートの⑩の評価が低いのもっともだと思う。⑥の、説明の仕方がわかりやすいかどうかの評価が低い点は大いに反省すべきで、どの部分がわかりにくかったのかを分析する必要があると思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は「点字の手紙が書いて、読めるようになること」と、最初に学生にも説明をしている。試験では、点字の一覧表やルールの載ったテキストを見ながら、さらには辞書を使いながらも、点字を漢字カナ混じり文に直したり、文を点訳したり、さらには、自分の思いを点字で書くことができるかを採点している。採点は減点方式で行っているが、試験の成績が少し悪くても、毎回出す課題ができていれば、プラス点を付けている。

## 4 授業改善の方法

到達点をかなり低く設定していて、これ以上レベルを下げることはできないので、マスターするポイントをもっと絞って授業を進めるべきかと思う。去年からの課題で点字の役割を実感できる作業を取り入れる方法を考えたい。ただ、人数が多くなると難しくなる。毎回の課題の添削だけでなく、その復習も必要かと思う。



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : カラーコーディネート論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2430 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 39名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	33	1	1	-	1	28	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.11		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 2.9%	60分 程度 11.4%	30分 程度 17.1%	ほとんど していない	65.7%	無回答 2.9%
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.9%	90分 程度 2.9%	60分 程度 17.1%	30分 程度 22.9%	ほとんど していない	51.4%	無回答 2.9%
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.26		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 31.4%	適切 であった 48.6%	やや 低かった 2.9%	非常に 低かった 2.9%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.17		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 14.3%	注意 していた 65.7%	ある程度 注意 していた 17.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 2.9%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.31		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.23		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

なぜ、色が見えるのか、色をもたらす心理的効果、色を表し、伝える方法、そして、配色と色彩調和など、生活に関する身近な色彩について考えていく。色鉛筆や系統立てで作られている色票を用い、カラーイメージを考え、また、調和理論や配色の仕方を実際に色票を貼って確かめていく。さらに、テーマにしたがって配色演習を行うなど、色を実際に使いながら授業を進めている。

## 2 アンケート結果に対する見解

黒板に立つ位置を考えていく。説明が速いとの声があるので、ゆっくりと説明するように心がけたいと思う。選択質問で、授業を理解するうえで困ったことがありましたか、の質問に対して、3割の学生があると答えているので、今後、このことを頭に入れ、どのようにすれば理解してもらえるのかを考えながら授業を進めていきたい。事前レッスン、事後レッスンの時間が少ないが、授業回数が増えるにしたがって増えていくと考えている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

①色が見える原理が説明できる。②色の表し方や表色系が使える。③調和理論を理解し、配色方法に展開できる。④色の心理的効果が分かる。⑤調和のとれた配色ができる。この5つを到達目標とし、それがどの程度到達したかによって、成績を評価している。出席点や授業の理解を20点、レポートを20点、デザイン帳での課題理解を60点の100点満点で評価している。

## 4 授業改善の方法

出来るだけ視覚に訴えながら理解してもらるように工夫を行っていきたい。細かい作業もあり、全体での説明では、分かりづらい内容もあるかと思うので、一人ひとりの理解度を確認しながら丁寧に授業を進めるように心がける。色のパワーを感じ、色を意識して使えるように、色への理解度を高めていく。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 岩橋 明子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 公衆栄養学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2220 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 29名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	29	-	-	-	28	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.10		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.4%	90分 程度 13.8%	60分 程度 20.7%	30分 程度 37.9%	ほとんど していない 24.1%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 6.9%	90分 程度 10.3%	60分 程度 24.1%	30分 程度 37.9%	ほとんど していない 20.7%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.24		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 13.8%	やや 高かった 44.8%	適切 であった 41.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.93		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 10.3%	注意 していた 58.6%	ある程度 注意 していた 27.6%	あまり 注意して いなかった 3.4%	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.03		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.10		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

わが国の健康・栄養問題の現状と課題について理解し、これらに対する現行の政策について学習するとともに、地域や職域の健康・栄養問題関連情報を収集・分析から総合的に評価・判定(地域診断)を行う。また、地域住民に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。スライドを使用した講義を中心に行うが、重要な点についてはスライド中に空欄を設け各自に記入させる。毎回復習項目の課題を課す。

## 2 アンケート結果に対する見解

栄養士実力認定試験の問題が解けるレベルを目指してシラバスを作成したが、教科書は4年制の管理栄養士養成施設向けに作られたものを使用し、同施設での授業内容を基に短期大学の半期分の授業として再構成したところ、やや難易度が高く進行も早くなってしまった。毎回課題を課したことで事前・事後の学習時間はある程度確保されたと考える。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度、定期試験、課題の提出状況及び内容により成績評価を行った。出席状況は1限ということもあり遅刻者や欠席者がやや見られた。定期試験は記述中心であるが、毎回の課題をきちんと書いていけば回答できるよう設定したため、まじめに取り組んだ学生は良い成績をおさめていた。課題については締め切りを守る者が大半ではあったが、一部の学生は学期末に慌ててすべての課題を提出していた。最終的に成績不良の者はレポートで単位を与えた。

## 4 授業改善の方法

座席指定制とし、私語などが減るように、スライドが見やすい前方の座席に座らせる。2で述べたように、やや難易度が高く進行も早かったため、学生の理解度に配慮してやや難易度を落としゆっくりすすめるようにする。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 須谷 和子 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 食事療法実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2195 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 27名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コ ー ス	食物栄養 コ ー ス	ビジネス キャリア コ ー ス			
	-	27	-	-	-	27	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.26	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 7.4% 90分程度 11.1%	60分程度 7.4%	30分程度 25.9%	ほとんどしていない 48.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 14.8% 90分程度 29.6%	60分程度 22.2%	30分程度 14.8%	ほとんどしていない 18.5%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.30	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 7.4% やや高かった 25.9%	適切であった 66.7%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.11	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 11.1% 注意していた 77.8%	ある程度注意していた 11.1%	あまり注意していなかった -	全く注意していなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.22	■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.26	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.41	■				

## 1 授業の概要、特徴等

食事療法論と運動して各病態別に食材の選択、分量、調理方法を理解し制約がある中で美味しい治療食を作ることを目的としている。栄養士免許取得後の就職先はさまざま、保育園から介護福祉施設に至るまであらゆる場面で実践力を試されることが多い。従って一回の授業で1病態のことがマスターできるよう内容を設定している。特に保育園での学外実習で課題として出されるアレルギー対応のおやつに重点をおき、2回の実習を行った。また、高齢者向けの介護食においては市販品との食べ比べを行い、費用面で許す限り腎臓病食の特別な食材(低たんぱくパンやご飯)も取り寄せて、知ってもらおうように心がけた。

## 2 アンケート結果に対する見解

「食」の観点をさらに一歩進めて「食事療法」とすることで病態別に注意する点が違うということの理解、学生の視野もさらに広がったのではないかと考える。「減塩」をテーマとした授業時のレシピは「給食管理実習」の献立にも上手く取り入れてくれていた。夏休み期間中に一部の学生に対し学外実習を実施したが、すぐに活用できる内容があったとの感想を述べている学生もいた。「食事療法論」など科目間の垣根を越えた真の応用になっており、予期せぬ効果があったと考える。学外実習での事前課題や事後の反省などを更に検証し、栄養士としてのレベル向上につながる授業内容にしていきたい。時間割の都合上後に伸ばせず、片づけなどが時間切れになることがあった。4時間目を履修していない学生に片づけの負担がかかってしまった回もあり反省している。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習終了後に必ずレポートを提出してもらった。病態にまつわること、自分ならどんなメニューを取り合わせるか、アレルギー対応の実習時には献立作成課題、また高齢者向け1日分の献立作成と栄養価計算などいろいろな場面を想定した課題に取り組んでもらった。軟食や腎臓食実習をした際には、常食からの展開を課題とし取り組んでもらった。成績については授業態度50%、レポート提出・小テスト50%として評価した。学生が実習に取り組む姿勢については問題なかったが、レポート提出状況が極端に悪い学生の対応に苦慮した。課題の仕上げが完了するまでやり取りを重ねた。

## 4 授業改善の方法

現場で必要とされる技術や知識を定着させるためにも、学外実習で出される課題と上手く絡めて学生に指導したい。また栄養士として就職した後も役立つ講義内容となるように情報収集して学生に伝えていきたい。「食事療法論」の担当教員とも連携を図りながら講義と実習が連動するよう努めたい。現場で必要とされる技術や知識を定着させるためにも、学外実習で出される課題と上手く絡めて学生に指導したい。食事療法論の講義内容とできるだけ並行して進められるように担当教員と連携を図りたい。また、普通食から他の病態への展開先に結びつけられるよう検討し、授業内容を調整したい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 食品衛生学実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2165 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 30名 **回答者数** : 26名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	26	-	-	-	26	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.12		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 15.4%	90分 程度 7.7%	60分 程度 15.4%	30分 程度 23.1%	ほとんど していない 38.5%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 23.1%	90分 程度 23.1%	60分 程度 26.9%	30分 程度 7.7%	ほとんど していない 19.2%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.62		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 11.5%	やや 高かった 57.7%	適切 であった 30.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.46		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 15.4%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 34.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.20		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.15		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.15		■				

## 1 授業の概要、特徴等

栄養士が大量調理の給食を管理する上で必要な食品衛生について実習を通して知識、技術を修得することを目的としている。食品衛生上一番大きな課題となる細菌等微生物の培養を実際に行い、食品微生物の実態について学ぶ機会としている。また、飲料水の水質検査や食品添加物の検出、缶詰の品質検査等についての実験を行う。

## 2 アンケート結果に対する見解

実験を通して様々な事象を確認する授業であるため、講義科目より理解しやすいものとなっていると考える。毎時のレポート課題があるため、事後の学習に費やす時間も必然的に増えている。栄養士業務の中で比重が大きい衛生管理につながる科目であるが、アンケート結果からは認識が十分ではないと思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習科目については、事後にレポートを書くことで、学修したことが身につくのだが、レポートを見ると理解が不十分であると思われる学生が増えてきている。栄養士必修科目で2回生開講のため、再履修をさせることができないため、すべての学生が単位認定できるまで持っていくことが必要である。

## 4 授業改善の方法

実験科目は1回生の前期・後期に開講されているため、レポートの書き方についての指導を受けているはずであるが、十分理解できていない学生も見受けられるところから、添削指導をすることが必要である。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 三浦 さつき **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 食品学実験 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2155ab **授業形態** : 実習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 33名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	33	-	-	-	-	31	-	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.88		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 18.2%	90分 程度 9.1%	60分 程度 3.0%	30分 程度 51.5%	ほとんど していない 18.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 51.5%	90分 程度 21.2%	60分 程度 9.1%	30分 程度 6.1%	ほとんど していない 12.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.52		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 54.5%	適切 であった 12.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.09		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 15.2%	注意 していた 75.8%	ある程度 注意 していた 6.1%	あまり 注意し ていな かった 3.0%	全く 注意し ていな かった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.03		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.15		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.97		■				

## 1 授業の概要、特徴等

生活未来科食物栄養コース1回生前期科目ということで、栄養士を目指して入学してきた学生が初めて受ける授業となる。併行して「食品科学」や「基礎栄養学」などを学んでいることもあり、他科目での学びと関連づけて学べるような意識づけを行っている。実験の授業に慣れていない学生がほとんどであるため、前半は実験で用いる基本的な器具の名称や使い方の説明や基本的な概念の確認を行い、後半からより実践的な内容に入っていく。

## 2 アンケート結果に対する見解

実験後に課題として課しているレポートにおいて、授業内で行った内容の把握と合わせて課題を出している。基本的な内容にとどまる場合もあるが、さらなる発展的な内容について調べることが必要な場合もある。アンケートの自由記述において、「難しすぎる」との意見も出ているが、授業以外で課題として調べる中で学びが深まるように期待して課題としている場合もあり、授業内でも補足説明や参考になりそうな本の紹介などをして調べるヒントなども出している。レポートについては、毎回添削して返却しており、間違いがあれば書き込んで指摘したり、次の授業内で振り返って確認したりするようにしている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスにおいて、授業態度(60%)、レポート提出(40%)としている。毎回の授業において、班での協力度や積極性、結果の観察時の様子などを評価の中心にしており、課題レポートの内容や提出期限の厳守なども重視している。実技や知識の確認なども併せて行い、学生自身の知識や技術の定着も促すように配慮している。

## 4 授業改善の方法

レポートの課題については、授業内でも説明をしているつもりであるが、不十分なところもあるようなので、今後はより丁寧な説明を行うようにする。正解がない課題については、まとめた部分のみで評価し、特に修正などを記入しない場合もあるが、「合っているかわからない」との意見もあったことから、必要に応じてコメントを加えるなど工夫していきたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 湯崎 真梨子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 食料経済 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2400 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 47名 **回答者数** : 35名

回答者内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	19	14	1	1	-	24	9	-	1	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 2.9%	90分程度 2.9%	60分程度 -	30分程度 34.3%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 2.9%	90分程度 2.9%	60分程度 5.7%	30分程度 34.3%	ほとんど していない 54.3%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.11		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 5.7%	やや高かった 28.6%	適切であった 51.4%	やや低かった 8.6%	非常に低かった 5.7%	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.29		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要は なかった 8.6%	注意していた 57.1%	ある程度 注意していた 28.6%	あまり 注意して いなかった 5.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.34		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.49		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.74		■				

## 1 授業の概要、特徴等

授業概要として、1) 現在の食に関する「生産」から「消費」に至る「流通」に焦点を当て、食市場の進展にともなう技術革新や市場形態の多様化を学ぶ、2) 食生活を取り巻く現状や食に関連しての環境問題など「負」の側面も考察、以上により食に関するトータルな現状と課題を講義した。授業では、フードスペシャリスト協会のテキストを使用し、資格試験対策に重点を置いた。また、社会の現状を知るためにDVD教材を活用した。

## 2 アンケート結果に対する見解

集中講義であったため、学生の集中力と興味が途切れないように、パワーポイントやDVDを使用した。学生の理解を高める上では良かったと思われる。フードスペシャリスト資格試験を意識するあまり、当協会編集のテキストを授業内で全て消化することを重視したが、ボリュームからみて集中講義中の短期間での理解には困難であった学生もいた(試験とアンケートの結果から)。今後は、試験対策と授業構成にさらに検討を加える必要がある。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業時間内でのレポートと最終試験により評価を行った。出席状況は評価の参考とした。

## 4 授業改善の方法

学生には年齢や社会経験など幅広い学生がいたため、理解度に差異が生まれた。本科目は社会経験により、どうしても理解度に差が生まれる科目であるが、今後は、社会経験のない「本来の年齢の」学生が理解できるように授業改善に努めたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : 人体の構造と機能 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目  
**授業コード** : 2115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 40名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	34	-	1	-	-	35	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 5.7%	60分 程度 14.3%	30分 程度 25.7%	ほとんど していない 54.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.4%	60分 程度 8.6%	30分 程度 25.7%	ほとんど していない 54.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.57		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 17.1%	やや 高かった 34.3%	適切 であった 42.9%	やや 低かった -	非常に 低かった 5.7%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.31		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.4%	注意 していた 65.7%	ある程度 注意 していた 22.9%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.26		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.37		■				

## 1 授業の概要、特徴等

教科書にそって、人体の構造と機能について概説した。骨格、筋、循環器、呼吸器分野を中心に扱ったが、単なる暗記の作業にならないように、後期の授業(人体の構造と機能Ⅱ)や臨床栄養学とどのようにかかわってくるか、自分たちのからだはどのようなしくみで動いているのかなどと関連付けながら進めた。教科書の理解の助けになるように、適宜プリントを作成し使用した。

## 2 アンケート結果に対する見解

「ヒトのからだ」に興味を持つという目標は概ね達成できたと思う。馴染みのない用語がたくさん出てくることで、難しさを感じるのは例年通り。授業にも慣れてきたと思うので、後期(人体の構造と機能Ⅱ)では、どんどん質問してほしい。映像を活用して、わかりやすい授業になるよう努めたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

毎回授業終わりに、その回の授業を理解できたかどうか設問をだした。器官ごとにまとめと振り返りをおこない、知識の定着を図った。なお理解が不十分と思われる場合は、課題を出して補った。ヒトのからだのしくみの基本を理解していることを単位認定の基準とした。

## 4 授業改善の方法

マイクを使ってほしいという要望は早速取り入れる。用語の説明は、さらに丁寧にしたいと思う。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 松河 哲男 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : イラストレーション **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3435 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.80	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 -	30分程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 -	30分程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.80	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 80.0%	適切 であった 20.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
授業の 進め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.60	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 40.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.60	■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.20	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.40	■				

## 1 授業の概要、特徴等

通信手段などビジュアルプレゼンテーションが飛躍的に進化し、デザインがよりその役割が大きくなっている現状を理解してもらおう。そのために、我々が日常生活で関わっているデザインが何故必要とされ、今の形になるまでを「葛飾北斎」という作家の作品と業績を通じて説明する。さらに、それを海外の美術の流れや思想と比較しながら知識を身に付ける。そして、そこから得た知識を基にグラフィックデザインの手法を使いながら、公募展に自身の作品を応募する。そして、その制作過程でさまざまな技術や感性を身に付ける。

## 2 アンケート結果に対する見解

本来、授業方針は、国際社会において日本が誇れる内容を少しでもアピールできる知識を持つことで、社会人として一目置かれる存在になることであった。しかし、技術習得の上達を焦るばかりに、実習の理解させるための説明が不十分であったように思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

<目標>毎回の授業テーマに基づいて、制作された作品を2つの公募展(第101回二科展デザイン部B部門・産経新聞主催全国14回全国ポストカードデザイン大賞)に応募する。 <成績評価基準>テーマに取り組む姿勢と作品の完成度を評価基準とした。 <単位認定>課題作品の提出。

## 4 授業改善の方法

今年度は提出物の量を増やし、技術レベルを上げることを目指した。しかし、それが個人の大きな負担となったように思われるので、次回からは公募から少し離れた創造力のあふれる面白いものを実習に取り入れたいと思う。



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 上田 利博 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科  
**科目名称** : ビジネス実務概論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目  
**授業コード** : 3138 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	3	2	-	-	-	3	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.60		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 40.0%	60分 程度 20.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 60.0%	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 20.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	5.00		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 40.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	5.00		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.60		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

職業人として適応するための職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、ビジネス常識および基礎的なコミュニケーション、情報の活用について、具体的なビジネス現場の状況を取り入れながらの講義である。一方的な講義主体の授業ではなく、企業のケースやインターネットでの事例等を活用し、また、学生自らも調べて発表し、学生相互に意見交換を行うことで自らの参画意識とともに理解度を高めていく授業である。

## 2 アンケート結果に対する見解

この授業では2年生が2人と留学生3名の合計5名で、アンケート回答結果も2年生と留学生で回答がバラついたと思われる。授業前後の勉強でのバラつきが大きく、留学生は積極的であった。一方、2年制は家庭での勉強に消極的だったので事前課題や授業後の宿題等の内容とし方に工夫が必要と思われる。また、授業への集中力が続かない学生に対する注意の払い方にも工夫を要すると思われる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

特に期末のテストは行わず、日々の授業への積極的な参画度および理解度、授業中の態度をはじめ、授業中の小テストの合計を成績評価の基準項目とした。日々の授業では、与えたテーマに対する事前の資料調べと、発表内容を採点の基準とした。また、他人のプレゼンに対するコメントも評価の対象とした。小テストは3級ジョブパス過去問を2回実施し、採点による授業の理解度確認を行った。

## 4 授業改善の方法

今回の生徒数は2年生が2人と中国からの留学生が3人であった。授業に対する取組み姿勢と理解度が大きく違い、留学生3人は問題はなかったものの、本来の学生(2年生)の取組み姿勢は予習・復習が十分ではなく、理解度もその場で理解していても自分の知識としての蓄積は不十分であった。これらを踏まえて、本来の学生に知識として理解してもらえるように、宿題等の効果的な活用を実施したいと考えている。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55304bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 50.0%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 50.0%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.83		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.83		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	4	4.17		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.50		■				

## 1 授業の概要、特徴等

幼児指導上必要なピアノの基礎技術・知識を身につける。次年度、弾き歌いができる為の基礎力を養う。90分を、個人・集団・フォローアップの三本柱で展開する。

## 2 アンケート結果に対する見解

レッスン時間をもう少したくさん取って欲しい。という意見が幾つかあった。直接聞いている意見でもある。限られた時間の中で効率よく、分かり易く指導できるよう、創意工夫に努めたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

グレード2取得を単位認定基準とする。発表会・出席・グレードの進捗状況・日頃の取り組み・MLでの取り組みを総合し評価する。

## 4 授業改善の方法

レッスン時間の確保は現段階では物理的に難しい。上記でも述べたが効率良い授業運びを心がけ研究してゆかねばならない。その為には学生の日々の練習も大切である。課題の出し方を工夫し技術の向上に努めたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55304ac・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	10	-	-	-	-	-	-	10	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.40		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 20.0%	90分 程度 10.0%	60分 程度 30.0%	30分 程度 10.0%	ほとんど していない 30.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 30.0%	90分 程度 -	60分 程度 30.0%	30分 程度 10.0%	ほとんど していない 30.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 10.0%	適切 であった 70.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.70		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 10.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.80		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.30		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.80		■				

## 1 授業の概要、特徴等

保育士 幼稚園教諭として 保育現場で必要なピアノ基礎演奏技術を身につける。

## 2 アンケート結果に対する見解

意欲的に取り組んでいたことが 反映された結果と思う。 あきらめる 投げやりになることが少なく 助け合って授業に取り組んでいた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目的は ほとんどの学生は達していた 進捗状況を見て 専任からフォローや特別授業設定もあり 学生が投げ出すことが無く 最後まで頑張ろうという意欲を持って取り組んでいたことは 大変良かった。 何とかしてもらえらる ➡ 何とか頑張ろう と意識の変化が見受けられた。

## 4 授業改善の方法

前半 後半で2人 3人グループになってしまうのは 人数の関係で仕方がないが 初心者には 時間が必要と思われる。初心者3人グループはなるべく避ける方向で グループ分け考えられたらと思います。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55304ac・cd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	10	-	-	-	-	-	-	10	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.30		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 20.0%	90分 程度 30.0%	60分 程度 -	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 10.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 20.0%	90分 程度 30.0%	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.30		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 30.0%	やや 高かった -	適切 であった 60.0%	やや 低かった 10.0%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.80		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 60.0%	注意 していた 30.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった 10.0%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.90		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.60		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.80		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

EP教室にて45分間のグループレッスンの受講と各担当教員の45分間レッスン(個人レッスン+フォロー)で構成される。各個人レッスンではバイエル教則本を用いてレベルに応じた曲に取り組む。グレード制になっており、上級になるにつれ、弾き歌いの課題も取り組む。

## 2 アンケート結果に対する見解

担当した学生は全体的によく練習していたと感じていたが、レッスン時間を含んでとなると、まだまだ少ない。ほぼ全員が初心者であり、入学間もない中でどのように感じていたか不安もあったが、半数以上が選択設問で困ったことはなかったと回答しており、順調に進んで来られたように感じている。多くの学生が将来に役立つと回答してくれたことが、取り組み姿勢に反映していた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

担当教員が学生のレベルに応じて開始グレードを決定し、初心者はグレード2の取得を、中・上級者は開始グレード終了することと平常点・欠席減点・発表会での演奏内容から単位認定する。

## 4 授業改善の方法

先にも述べたように、担当した学生はよく練習しており、上手くなっていくことを実感し、意欲的に取り組んでいた。しかし、ある程度スピードを上げて合格しなければならない点で、楽譜上の音を読み取り演奏するのではなく、指番号で音を決定しているのも見受けられた。個人的には多くストレスを抱えながら練習するよりも、初心者のうちは音を書いたり、指番号を書くことで心にゆとりをもって取り組めるのなら書いても良いという考えではあるが、曲のレベルが上がると対応しきれなくなる為今後の様子を見ながら指導していきたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55304bf・cf **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 8名

回答者内訳	学年				学科・コース					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース			
	8	-	-	-	-	-	-	8	-	-

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.38		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 25.0%	90分程度 12.5%	60分程度 25.0%	30分程度 37.5%	ほとんどしていない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 12.5%	90分程度 25.0%	60分程度 37.5%	30分程度 25.0%	ほとんどしていない -	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 25.0%	やや高かった 37.5%	適切であった 37.5%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	5.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 75.0%	注意していた 12.5%	ある程度注意していた 12.5%	あまり注意していません -	全く注意していません -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	5.00		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.63		■				

## 1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩。楽譜の理解(音符の読み方・楽後の理解)。グレード別に設定された課題曲を学生の進度別に学習する。グレード中級者からは童謡弾き歌いの導入。指導は個人授業とML・フォローの集団授業の組み合わせ。

## 2 アンケート結果に対する見解

ピアノは予習・復習がきちんとしてきていないと、なかなか課題のクリアは難しい。少しでも予習・復習がしやすくなるよう、譜読みや演奏のポイント等を指導している。時間の経過とともに、課題に取り組む学生の姿勢にバラつきが出てくるので、常に学生が前向きに練習に取り組めるように気を配りたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初級の楽譜が自分で譜読みでき、演奏できることが目標。決められた曲数を全て合格し、課題曲を試験で演奏する。試験での演奏を複数の講師で採点し平均点を出す。平常点も加味される。

## 4 授業改善の方法

学生が楽しんでピアノの自宅練習ができるように、色々な角度から興味をひく授業を心掛けたい。また個人指導とML・フォローの講師が連携をとり、キメの細かく学生の指導を行っていきたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55304bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	5	1	-	-	-	-	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.67		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 33.3%	90分 程度 33.3%	60分 程度 16.7%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない	-	無回答
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 33.3%	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない	-	無回答
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 50.0%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 33.3%	やや 低かった	-	非常に 低かった	無回答
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.60		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 50.0%	注意 してい た 50.0%	ある程度 注意 してい た	あまり 注意 してい なかつ た	全く 注意 してい なかつ た	-	無回答
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.83		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.83		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.83		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

保育士、幼稚園教諭として、保育現場に必要なピアノの基礎演奏技能を理解し修得するための授業である。授業は、集団授業と個人レッスン並びにそのフォローアップ授業の2つに分かれて行われる。集団授業とフォローアップ授業では総合的な音楽的知識と経験を得て、個人レッスンでは学生それぞれのレベルに応じたグレードに従ってピアノ曲を練習しアドバイスを受けた課題を習得して実力をつけていく。

## 2 アンケート結果に対する見解

ピアノの演奏技能向上のためには毎日の練習の積み重ねが必要であるが、受講態度②③のアンケート結果を見るに、全体としてはまずまずではあるが、やはりもっと時間をかけて練習して欲しいところである。アルバイトに時間をとられ思うように練習できない学生も見受けられ、日々の練習時間をどう確保していくか、学生自身が意欲をもって練習を積み重ねていけるよう、継続的に見ていきたいと思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

音楽 I の授業では、グレード 2 を取得することが単位認定基準となっている。成績評価は、発表会形式の試験において課題曲の中から教員と相談の上選んだ曲を演奏した試験点と、授業への取り組みや態度、グレードの達成度、出席状況等から算出した平常点の合計により評価される。

## 4 授業改善の方法

学生が、日々の練習の積み重ねにより自分自身の演奏技能の上達を実感し音楽を楽しむことができれば、そのことがより上を目指す意欲となっていくので、学生ひとりひとりが充実した練習が出来るよう指導していきたい。また保育現場で必要な音楽的技能はピアノ演奏技能によるものばかりではないので、より多くの音楽的経験が出来るよう常に工夫し取り組んでいきたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 吉田 直子 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55304aa・ba・ca **授業形態** : 演習 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	15	-	-	-	-	-	-	15	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.07		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 6.7%	90分 程度 20.0%	60分 程度 40.0%	30分 程度 26.7%	ほとんど していない 6.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 6.7%	90分 程度 13.3%	60分 程度 53.3%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 6.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	3	4.20		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.20		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 26.7%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 26.7%	あまり 注意して いなかった 6.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.20		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.27		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.93		■				

## 1 授業の概要、特徴等

音楽系の授業に限られる中、必要な内容を指導するためにピアノの個人レッスン45分と集団授業45分、ピアノの個人レッスンの待ち時間も子どもの歌の指導を取り入れ、90分を3分野にわたり授業を展開している。教員は個人レッスンでは一人15分という短い時間でいかに個人個人を上達に導くのか、同時通訳のように神経を使って時間との戦いの中で1コマ6人の授業をする。このため、授業中はアンケートをゆっくり書いてもらう時間もないのが実情である。グレート制を取り入れ、期末に発表会をするなど、達成意欲を促しながら自ら積極的に学習できるように工夫し、学生が生き生き学習していると非常勤の教員からは感想が出ている。ただ全くピアノ経験がない学生が2年間で実務レベルに達することは難しい課題であるため本人の意識と努力が不可欠であるが、初心者ほどモチベーションの持続が常に課題となる。特にピアノ練習が不足する学生は他の学科も単位取得が危うい場合が多いため、他の学科で課題やテストが行われる時期になると、練習が極端におろそかになって進捗に急ブレーキがかかることが悩みである。

## 2 アンケート結果に対する見解

教員としては基本の基本から丁寧に丁寧に、学生が卒業後も自分で学習していけるように導いているつもりである。授業の進め方や総合評価は科目群平均、全体平均を上回っており、難しい科目のわりには良い結果が出ていると思う。練習時間は科目平均よりはかなり高いが、1週間58分では1日10分にも満たないわけで教員の工夫も限界を感じる。最近の学生の気質なのか、明らかに弾きにくい指使いをしている場合に、こちらの方が弾きやすいかもよと優しく提案しても、これではだめなんですか？私にはこれではいから押し付けられないでほしいというような学生も居る。授業アンケートの意義は理解しているつもりだが、反面で、学生側からの一方的な言い分だけを受け付けるのでは真の状況把握にはつながっていない面もある。「教えて頂く姿勢」は実習中の態度や謙虚に学ぶ姿勢にもつながる。教員評価だけでなく学生の自己評価をもう少し充実させた内容の謙虚に学びを振り返るアンケートにするべきではないかと感じる。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、本来全くの初心者が1年はかかるレベルを4か月で履修生全員が達成して単位取得している。学生への意欲促進のシステムがかろうじてうまく機能していること、読譜力を「音楽基礎演習」で基礎の基礎から指導して自分で楽譜を読めるようになってきていることが良い影響をもたらしていると考えている。ただ、実務レベルにはまだはるかに遠い。実際には少なくとも10年程度かけて身につける内容を短縮するにも限界があるが、とにかく毎週練習してきて授業(レッスン)を休まずに受ける地道な努力や態度を認めるため、伸び率の高い学生に加点するシステムをとっている。毎学期ごとに非常勤教員とミーティングを開き、指導法や問題点の洗い出しと解決策の討議を重ねて反省点を次学期にフィードバックしており、授業目標、成績評価に関しても今後も継続的に検証を重ねる。

## 4 授業改善の方法

このアンケートから特に授業改善のために得られる情報は得られていないが、学生の練習時間の少なさや予想以上であったので、教員だけでは限界があること、学生にはわかることとできることは同じではなく、わかったことができるためには自分の努力が必要であることの手掛は意識的におこないたい。練習する意欲付けのしくみづくりも引き続き工夫を考えたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 中島(上杉) 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 音楽Ⅲ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55321ad **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	6	-	-	-	-	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 16.7%	60分 程度 33.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 16.7%	60分 程度 33.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.83		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.67		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.83		■				

## 1 授業の概要、特徴等

90分を2分割し、グルーブレッスンと個人レッスンの両方のレッスンを受ける。 グルーブレッション・・・10名程のグループ。電子ピアノを各々1台ずつ使って伴奏法、アンサンブルなどを練習する。 個人レッスン・・・45分間に2～3人の個人レッスンを行う。1回生の時に取得したグレードの続きを練習する。

## 2 アンケート結果に対する見解

受講希望者が多いなか 受講資格を得た学生だったので 真面目に練習に励んだと思う。 個人個人、練習量や弱点など違うので色々工夫した事が少しは伝わっていたのかなと思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育の現場で歌いながら伴奏することは大変難しい。 どんな形の伴奏でも良いので、たくさんの歌を知って欲しい。 前期は実習期間も長く、園からの課題曲も多かった。 また、他の音楽の授業もあり なかなか多くの曲に取り組みなかった学生も多かった。 それで、開始グレード取得が評価の基準となった。

## 4 授業改善の方法

15回の授業のなかで、10回を過ぎた頃から単位取得に向かって慌しくなってくる。 前期スタート時点の落ち着いたペースを保つのが厳しくなってくる。 学生の授業の状態をよく聞いて 今以上にきっちりと計画を学生と共に立てて実力アップに繋げたい。



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 別所 崇 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 学習・発達論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 52002ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	59	-	-	-	-	-	-	59	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.8%	90分 程度 1.7%	60分 程度 11.9%	30分 程度 27.1%	ほとんど していない 52.5%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.8%	90分 程度 3.4%	60分 程度 10.2%	30分 程度 20.3%	ほとんど していない 57.6%	無回答	1.7%
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.15		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.5%	やや 高かった 33.9%	適切 であった 54.2%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.7%	無回答	1.7%
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.12		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.9%	注意 していた 62.7%	ある程度 注意 していた 23.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 1.7%	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.98		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.34		■				

## 1 授業の概要、特徴等

学習心理学や教育心理学、発達心理学の知見をもとに、子どもの心身の発達の様相について、講義を行う科目である。生涯発達の観点から、前半では乳幼児期から老年期までのヒトの発達の道筋を説明し、後半では発達障がいについて、学習とは何か、ヒトの行動とは何か、といったテーマを設定し授業を展開した。特徴としては、子どもの発達の流れについては、我々が平仮名や漢字を習うように、保育者としては必須の事項であることを意識させるために、繰り返し乳幼児期の発達の流れについての小テストを実施した。

## 2 アンケート結果に対する見解

アンケートでは、受講態度の②③に表れているように、事前学習と事後学習について、ほとんどしていないが50%を超える結果になり、学生のそれらへの取り組みができていないことが判明した。したがって、今後は他の授業担当科目も含め、事前学習と事後学習(課題)への取り組みについて、講義の中で具体的な指示を行っていききたい。また、選択質問について、学生の無回答が1/4を占めており、選択質問の「選択」に気をつける必要があると感じた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

やや多くの再試対象者が出たことから、またアンケートの授業の進め方⑧のどちらともいえない割合の多さから、講義内容の理解について学生に日々の取り組みを意識させると同時に、学生によりよい理解をさせるための、教員自身の授業の工夫が求められているように思う。また、評価方法のパーセンテージにおいて、理解度60%となっているところも、学生の状況に合わせて毎年変更を加えていかなくてはならない部分と感じた。

## 4 授業改善の方法

教科書・プリントの使用は、学生アンケートにおいても、授業の理解に役立つと感じている割合が多かったことから、まずは引き続き講義内容の理解につながるような、補助プリントを随時作成して、学生に配布・記入させることは行っていききたい。また、2に記載したように、事前学習・事後学習(課題)については、教員がこれは予習・復習をしておくべきことであるということの指示がしっかりできなかったのではないかとこの反省も含めて、学生の取り組みを促す働きかけを講義の中できっちり行っていききたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 谷口 明子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 家庭科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53045 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 22.2%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 55.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 22.2%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 55.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.44		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた -	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.67		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.22		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.67		■				

## 1 授業の概要、特徴等

小学校家庭科の授業について、その変遷や学習内容・評価のしかたを学ぶ。模擬授業を構築しながら、その実際について、教材研究のたいせつさや実践的・体験的にまなぶとは、という家庭科教育の目標を意識した授業を進める。

## 2 アンケート結果に対する見解

少人数の授業ということもあり、学生さん、一人ひとりの理解を確認しつつ、授業を進めるようにしました。新しい知識を得、将来に役立つ、と答えてくださった方が多く、その意図が伝わっていたと思いました。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

家庭科は、指導要領にも書かれているように実践的・体験的な活動を通して学ぶことを大切にしている教科です。学生さんにも基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、将来教える側に立った際に活かせるようにと授業内容を配慮しました。評価基準や単位認定もこの観点で行いました。

## 4 授業改善の方法

今後でもできるだけ実践力が養えるように、基礎的・基本的な内容を実習も交えながら授業したいです。そこから、何をどう教え、子どもたちにどんな力をつけたいか、を考えさせる授業を構築するように考えたいと思います。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 藤田 悦代 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : カリキュラム論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53002ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 62名 **回答者数** : 57名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	57	-	-	-	-	-	-	54	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.04		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 7.0%	90分 程度 1.8%	60分 程度 7.0%	30分 程度 31.6%	ほとんど していない 52.6%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 7.0%	90分 程度 3.5%	60分 程度 5.3%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 50.9%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.25		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 8.8%	やや 高かった 24.6%	適切 であった 64.9%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.8%	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.19		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 19.3%	注意 していた 45.6%	ある程度 注意 していた 29.8%	あまり 注意して いなかった 5.3%	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.27		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.19		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.39		■				

## 1 授業の概要、特徴等

・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 ・教育課程及び保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 ・計画、実践、省察、評価、改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ、理解する。

## 2 アンケート結果に対する見解

保育内容の充実と質の向上について、現場の様子やエピソードを取り入れながら分かりやすく伝える。指導計画の作成については、学生の理解度を配慮しながら進めていく。 学生の思いや考えを出しやすい雰囲気づくりを行い、実習に生かせるように工夫する。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について重要事項を説明できる。 ・教育課程及び保育課程の編成と指導計画の作成ができる。 ・計画、実践、省察、評価、改善の過程について、その全体構造を動的にとらえることができる。

## 4 授業改善の方法

・教科書とプリントを併用しながら、反復授業や振り返りを行い、分かりやすい授業を心がけ学生の理解度を配慮しながら進めていく。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 杉山 晋平 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 教育原理 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 51070abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 76名 **回答者数** : 60名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	2	57	-	1	-	-	-	57	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.07		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.7%	90分 程度 3.3%	60分 程度 10.0%	30分 程度 11.7%	ほとんど していない 73.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.7%	90分 程度 1.7%	60分 程度 10.0%	30分 程度 11.7%	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.3%	やや 高かった 21.7%	適切 であった 70.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.72		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かつた 40.0%	注意 してい た 43.3%	ある程度 注意 してい た 15.0%	あまり 注意し てい なかつた 1.7%	全く 注意し てい なかつた -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.66		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.32		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.52		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

本授業は、教育の基本理念、教育思想、教育をめぐる諸制度、教育改革をめぐる動向等について理解を深めるとともに、教員の身分・サービスについて学ぶことを目指している。特徴としては、①視聴覚教材を効果的に活用して、教育について幅広い多くの知識・内容を扱っている点、②受講生が自分自身の理解を深められるよう、コメントシート作成やレポート課題を定期的に設定し、「書くこと」を重視している点が挙げられる。

## 2 アンケート結果に対する見解

「勉強しやすい雰囲気作り」について、課題を認識している。授業全体にわたって、私語や居眠り、遅刻等が確認されたが、今後、さらに受講態度について適切な指導を心がけるとともに、学生一人ひとりの学習意欲や興味・関心を喚起し、思考・表現の活性化を支える手立てを講じなくてはならない。合わせて、本学の2年間の教育課程において本授業の占める位置を再確認し、各実習や卒業後の現場実践への見通しが感じられる授業展開を精査していきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生の実態に即して多様な学習成果の評価方法を探ってきたが、学生の理解度・到達度には個人差が認められた。各クラスとも最低限度の授業目標は概ね達成されたとは考えているが、その中身と方法について継続的に検討しながら、成績評価の厳格化に努めたい。

## 4 授業改善の方法

幅広い知識を切り売りするのではなく、現場実習をはじめとする実践経験や入職後の展望とのかかわりを意識し、一人ひとりの学生が見通しを持って教育観を磨けるような授業を展開しなくてはならない。そのため、各現場実習・他科目・社会活動等における学生の学習経験をしっかりと把握し、その意味を捉え直す新しい視点を提供していくことができるよう、授業計画を見直す。また、年間の学修サイクルに照応した効果的な事前・事後学習のあり方について慎重に検討していきたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 谷岡 義高 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 教職入門 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 51042 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 3名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	3	-	-	-	-	-	-	3	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	5.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 66.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 66.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった -	適切 であった 100.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	5.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	5.00		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

実際の小学校の授業のビデオを見せたり、かつて私が出てきたお便りや研究誌の論文、指定のテキストなどの読み取りをさせたりしながら、教師の子どもへの働きかけ、学習の在り方はどうあるべきかを考えさせるようにした。「教師は、子どもの声をしっかり聴く」ということを本講義にも適応し、学生自身の今日の学びに対する「めあて」や「ふりかえり」について、私も学生も深く考察をし、自分自身の現在の学びを見つめていくことで、学習の価値を捉えるように心掛けた。

## 2 アンケート結果に対する見解

たった三人の学生であった。一度、社会人として職についてから教職を目指す学生も二人いて、小学校の教師に必ずなることを目指した熱心な取り組みであった。私自身、大学時代に研究室で3人のゼミを2年間経験していて、その中で学んだことが、今回の講義にも生かされることとなった。自分の追究として準備を多く取り組み、教授の支援を受けながら、真剣に学んだ二年間だった。そのような学び方を、今回の三人の学生にも少しは経験してもらおうことができたかもしれない。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

小学校の授業は、その子の人生の大切な瞬間であり、日々、真剣勝負であることを、伝えることが大切である。短い講義時間ではあるが、教師は、子どもの教育、子どもの生活について、責任ある考え方ができることが目標である。1秒、1分を無駄にせず、子どもの成長に対して温かい支援、見守り、評価ができるかということが、教師の大切な資質となる。毎回の講義の学生のふりかえりと、指導案や意見文や小論文などを評価することで、単位認定とした。

## 4 授業改善の方法

佐保短大では初めての講義だった。また、3人という少人数も初めてだったので戸惑いもあったが、毎回、学生のふりかえりを基にしたお便りを私が書き、それを読みあうことから学習を始めた。学生は常に熱心であった。講座の早い時期から、もっと深い話し合いができるような環境がつけられるように、心掛けたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 池田 英郎 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 児童館の機能と運営 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53319 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	7	-	-	-	-	-	7	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.14		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.43		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意し てい なかつた	全く 注意し てい なかつた	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	4.14		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.43		■				

## 1 授業の概要、特徴等

児童館の機能と運営について、現場の実践を交えながら理解を高めることを目標とした。少人数の授業の為、学生自身が考え、発言し、やりとりを行う授業を実施した。しかし、実習に参加し資格取得を目指す学生とそうでない学生の興味関心の度合いが様々であったため、相互のやりとりの中での学び合いを生み出すことに苦労した。また、動画資料を多く活用し、興味関心を高める工夫を行い、毎回の授業で意見や感想を書いて、伝えるという工夫をした。

## 2 アンケート結果に対する見解

分かりやすい授業と、表面的な理解ではない深い考察につながる授業の両面を意識したが、学生によっては分かりにくい部分も多くあったのかもしれない。事前の学習や事後のふりかえりについては、特に指示をしなかった為、学習時間はほとんどなかった。授業の工夫によって、ある程度興味関心を高めることはできたのかと思う。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成は難しく、学生の理解度の差は大きくあった。そのため、評価基準も難しさがあつた。授業の中で発言し合いながら理解を深めることを大切に考えた為、評価は出席と授業態度を重視し、レポート課題で理解度を確認し、評価した。実際には、理解度では単位認定が少し厳しい学生もいたが、出席と授業への参加を評価した。

## 4 授業改善の方法

まず興味を持つことから始まったので、分かりやすい教材を多く使うことは必要だと感じた。動画、漫画などもできるだけ分かりやすい素材を活用した。また、授業内での学び合いを意識したが、慣れるまでにとっても時間がかかった。今回はレポート以外の課題をほとんど課さなかったが、少しの課題は必要かと思えます。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 廣岡 正昭 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 社会科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53015 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	7	-	-	-	-	-	7	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.43		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.57		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.57		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 28.6%	注意 していた 42.9%	ある程度 注意 していた 28.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.43		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.14		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.57		■				

## 1 授業の概要、特徴等

小学校社会科の学習内容とそれについての学習指導のあり方について講義ノートを元に学修した。その際小学校社会科の学習内容の基盤となる地理や歴史などの社会科的知識の獲得にも別に学習プリントを用意してとり組んでもらった。授業の特徴は、各学年の学習内容について単元別にそれぞれの単元に合った学習活動を提示して授業のイメージを作りつつ、指導のポイントを確認していくところにある。

## 2 アンケート結果に対する見解

少人数での授業であるので、学生との質疑応答や意見交換を交えながら授業を展開できた点が良かったし、ある程度満足を得られたと思う。アンケート結果からは、学生から見た授業の不備な点がうかがえるので今後、4で示すような方向で授業を改善していきたいと考える。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標である小学校社会科の学習内容とそれについての学習指導のあり方については一定の理解を得られたと考えるが、小学校社会科の学習内容の基盤となる地理や歴史などの社会科的知識の獲得や、実際の授業構想力という点ではもう少し課題が残ると考える。成績評価は試験に加えて、レポート、指導案、学習プリント等各種の課題に対する取り組みを見て行い、おおむね単位を認定できるとした。

## 4 授業改善の方法

小学校社会科の学習内容とそれについての学習指導のあり方に加えて、基盤となる地理や歴史などの社会科的知識の獲得のための教材を充実させる。また、教育実習までに実際の授業構想力・展開力を身につけるために指導案作りを早い段階で授業に取り入れていく。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 山口 直範 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 社会的養護内容 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53221ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 57名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	57	-	-	-	-	-	56	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.18		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 3.5%	90分 程度 3.5%	60分 程度 7.0%	30分 程度 17.5%	ほとんど していない 68.4%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 3.5%	90分 程度 3.5%	60分 程度 5.3%	30分 程度 19.3%	ほとんど していない 68.4%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.51		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.0%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 59.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.33		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 10.5%	注意 していた 70.2%	ある程度 注意 していた 19.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.25		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.19		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.56		■				

## 1 授業の概要、特徴等

1年生前期の社会的養護で学んだ基礎理論を実践に応用する内容である。特に施設での保育士に求められる職員としての対応を中心とする。主な内容は、児童虐待、障害児、心理的な症状などに保育士としてどのように介入していくべきかである。

## 2 アンケート結果に対する見解

1年後期の社会的養護では成績が悪かった学生の否定的な意見により、すべての項目において平均以下の学生評価であったが、今回は全て平均以上の評価であった。基礎理論は学ぶ意識が低かったのに対し、今回は応用であり、演習が中心であったことの影響が大きい。演習科目であり、学生の意見を聞きながら考えさせる時間を多く取ったため満足度が上がっていると推測する。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

もっと厳しく評価してもよかったのだが、保育士は完成体になって得られる資格ではなく最低限のことを学んだ者が取得できる資格ととらえている。単位認定者は保育士として備えるべき最低限度のことは理解できていた。

## 4 授業改善の方法

大きく改善する予定は無いが、学生が児童養護に興味を持つような話題提供に努めていきたい。



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 潮谷 光人 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 社会福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 51000ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 65名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	56	7	2	-	-	-	-	65	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.12		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 4.6%	90分 程度 3.1%	60分 程度 21.5%	30分 程度 18.5%	ほとんど していない 52.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 4.6%	90分 程度 3.1%	60分 程度 20.0%	30分 程度 26.2%	ほとんど していない 46.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.25		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 23.1%	やや 高かった 44.6%	適切 であった 30.8%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.5%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.86		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 10.8%	注意 していた 70.8%	ある程度 注意 していた 16.9%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 1.5%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.77		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.34		■				

## 1 授業の概要、特徴等

## 2 アンケート結果に対する見解

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

## 4 授業改善の方法

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 中島 順子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 障害児保育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53211ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 74名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	59	-	-	-	-	-	58	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.7%	90分 程度 1.7%	60分 程度 5.1%	30分 程度 20.3%	ほとんど していない 71.2%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.7%	90分 程度 -	60分 程度 5.1%	30分 程度 22.0%	ほとんど していない 71.2%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.51		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.2%	やや 高かった 30.5%	適切 であった 59.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 22.0%	注意 していた 47.5%	ある程度 注意 していた 28.8%	あまり 注意して いなかった 1.7%	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.36		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.32		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.58		■				

## 1 授業の概要、特徴等

① 障害児保育を支える理念や歴史の変遷から現状について理解する ② 様々な障害について理解する(知的障害・自閉症スペクトラム障害・LD・ADHDなど) ③ 個々の発達を促すかわりとはなにかを学ぶ(障害特性に合った支援方法) ④ 具体的な援助の方法、環境構成、連携等について学び、理解する

## 2 アンケート結果に対する見解

学生の受講態度は、比較的良かったと思います。授業途中でトイレに行くこともほぼなくなりました。しかし、居眠り、携帯を操作する姿は見られ、注意しておりました。授業内容は、教科書、資料、視聴覚教材が役立つように思います。しかし、定型発達の子どものも実際に十分理解できない学生に障害児保育や保育の仕方を理解してもらうのは難しいです。学生は就職後にこの授業や教科書などが役立つことは理解していたと思います。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

障害児保育の理念や現状について、各障害の特性や子どもの姿については授業の中でも特に重要ポイントとして教えました。成績評価は作成テストの平均を70点台になるような工夫をしました。

## 4 授業改善の方法

授業の進め方はシラバスに出来るだけ合わせています。居眠りの対策の1つとして記述を入れておりました。書き能力に個人差があります。視覚教材(資料・パワーポイント・ビデオ など)は学生の興味・関心に合わせて使用するよう工夫しました。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 中園 大三郎 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 生徒・進路指導の理論と方法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53070 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 33.3%	90分 程度 11.1%	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 22.2%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 33.3%	90分 程度 11.1%	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 22.2%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 22.2%	やや 高かった 44.4%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.33		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 22.2%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 11.1%	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.22		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.22		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.56		■				

## 1 授業の概要、特徴等

本授業では、生徒指導・進路指導の基礎的な事項を今日的な課題を踏まえながら理解を深め、その指導法を学ぶことを目指している。授業では、アクティブ・ラーニングの導入、学生同士の演習を積極的に取り入れた。また、毎時、指導事例を取り上げて学生同志の意見交流の場を設定し、指導力の向上を図った。学生が発表した内容は研究冊子にまとめて全員に配付し、学修成果を共有・確認すると共に、教育現場で活用できるようにした。

## 2 アンケート結果に対する見解

毎時の始めに提示する授業目標の達成を目指し、多様な指導方法を導入し、学生の自主性を発揮できる場の工夫などにより、授業内容の理解を深めた。授業後に行う学生の自己評価の理解度や感想を次時に生かしてきたことにより、学生とは本授業の内容や方法について、また、信頼関係等を共有することができたと感じており、その結果がアンケートに表れている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業では、毎時の目標を達成するため、学生の自主的な学修を大事にした指導内容や方法の工夫に努めた。成績評価基準についても、年度当初に分かりやすく説明し、いくつかの評価観点の総合評価であることや、真摯な学修姿勢を含めて単位を認定してきた。その結果、成績評価については適切であったと判断している。

## 4 授業改善の方法

今日的な生活指導や進路指導の諸問題をできるだけ授業の中に取り上げ、それらの指導法について学生同士が自主的に話し合える時間を確保して、より質の高い授業を推進し、その学修成果を学校現場で生かせるようにしたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 杉島 尚徳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 総合演習(スポーツ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 54201c **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	13	-	-	-	-	-	13	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.15		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 -	30分 程度 15.4%	ほとんど していない 76.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 15.4%	ほとんど していない 84.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.77		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 15.4%	適切 であった 84.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.92		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 38.5%	注意 していた 61.5%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.92		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.62		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.85		■				

## 1 授業の概要、特徴等

本授業の目的は、付属生駒幼稚園協力の下、運動・スポーツを通じた保育者としての子どもとの関わりを実践的に学ぶことである。具体的な活動として、年間7回の付属幼稚園園児の運動指導を学生が担当し、活動計画・実践・反省と考察を繰り返して授業を進めていく。上述した目的を達成するために、指導技術やプログラムだけでなく、必要とされる保育者としての援助の在り方を実践から学んでいくことを目指す。

## 2 アンケート結果に対する見解

学生による授業アンケートにおいて、目に付いた項目が総合評価⑨この授業を受けて新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高くなりましたかという評価項目結果の低さである。実務者として関わっている立場としては、この項目評価が低い事は問題であり、アンケートを通して課題が浮き彫りになった。また自由記述における「もっと体を動かしたい」という記述も学生の運動欲求を満たさきれていない現状が現れている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業の目標は、幼児期の運動遊びを豊かにするために必要とされる基本的な知識や技術の習得に向けて、幼児期の運動発達の特徴、運動指導を行う際に必要とされる補助の仕方、多様な動きが経験できるようさまざまな運動遊びについて学習することである。成績評価基準としては、授業への参加姿勢が60%、課題及びレポートが40%とする。

## 4 授業改善の方法

前期は、基本的な知識や技術の習得よりも、保育者としての心得や態度に重点を置いて授業を進めた。そのため、保育現場で活かせる直接的な技術の習得や新しい知識の獲得に至らなかったと感じた学生もいたと考えられる。後期では前期で学んだ基本的な保育者としての心得と態度をさらに研鑽しながら、保育者として必要な基礎知識や技術も併せて学習していく。その際、前期に収集した視聴覚教材用の素材も活用し進めていく。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 吉川 れい **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 造形美術 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55500abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 54名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	54	-	-	-	-	-	-	54	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.7%	90分 程度 1.9%	60分 程度 1.9%	30分 程度 7.4%	ほとんど していない 85.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.7%	90分 程度 1.9%	60分 程度 1.9%	30分 程度 9.3%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	3	3.62		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 9.3%	やや 高かった 18.5%	適切 であった 61.1%	やや 低かった -	非常に 低かった 7.4%	無回答 3.7%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 22.2%	注意 していた 40.7%	ある程度 注意 していた 24.1%	あまり 注意して いなかった 3.7%	全く 注意して いなかった 5.6%	無回答 3.7%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.02		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.71		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.15		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

実技中心の学外実習に役立つ要素を含んだ課題を仕上げていく授業。課題ごとに作品制作と制作レポートをかく。今期は絵の具、色鉛筆、コンテ、マジック、和紙、色紙、色画用紙、フェルト、粘土、廃材(段ボール、牛乳パック、ペットボトル、紙箱)を使用した。また白板の板書のうち、主な制作手順は写すように指示している。写すことで頭に入るようで、作業にすんなりと取り掛かっている。必要と思われる事項はプリントしスケッチブックに貼るよう指示した。

## 2 アンケート結果に対する見解

今期は学生の進捗にかなり合わせて、思い切って時間をかけたり、条件を減らしたりして調整をしたので、難しいと感じたポイントは少々軽減されているとおもう。レベルについては大学生が作って達成感をもつ課題を設定したいという思いがあるので少しづつ調整していきたい。ビデオ教材等は全く使わずに自作の教具と、参考作品、図版等で説明している。全体で説明後、それらを持って机をまわり、不明な点がある学生には個人的に説明をしている。それらはアンケート項目にはなく、一般的な視聴覚教材ではないのかもしれないがそれにかわるものとしてつづけるつもりである。ずいぶんと教材研究したつもりであったがアンケート結果をみると、不十分であったのだと知らされた。今後またしっかり取り組みたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本年度は人数の関係によりいつもより、のびのびと作業できたように思う。作品づくりは楽しくできたのではないかと、指導者として知っておいてほしいことのいくつかは伝えられたかと思う。しかし制作レポートをかくのは切り替えが必要であるし面倒と感じたのではないかと。作品とレポートについてはそれぞれ配点を決め、合計し80点満点に換算し、スケッチブックのかきこみ(アイデアスケッチ、エスキース)授業態度、準備、後片付けなどを20点満点で加味して単位認定を行った。

## 4 授業改善の方法

指導者の資質を高めるという意味で様々な素材・道具を扱いたいのが幼児教育の現場で扱われるものを扱う機会を多くする。安価で入手できた材料の高騰、廃番などがあつた。それにかわるものとして、廃材を利用する機会を増やす。学生が互いの作品について発表し鑑賞しあう機会を持ちたい。完成作品であるほうがいいとは思いますが、製作途中であってもほかの作品を知ることで、理解が深まり、それぞれの表現に良い影響があるだろう。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 大高 千明 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 体育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 55600abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	59	-	-	-	-	-	-	59	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.42		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 3.4%	90分 程度 -	60分 程度 3.4%	30分 程度 10.2%	ほとんど していない 83.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.4%	90分 程度 -	60分 程度 3.4%	30分 程度 11.9%	ほとんど していない 81.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	2	3.98		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 13.6%	やや 高かった 10.2%	適切 であった 71.2%	やや 低かった 3.4%	非常に 低かった 1.7%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.43		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 33.9%	注意 してい た 47.5%	ある程度 注意 してい た 16.9%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た 1.7%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.46		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.15		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.36		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

授業の概要は、幼児の運動あそび、小学生に対する体育の授業づくりを学ぶことである。授業の特徴としては、実技の授業であるため、運動する場面にふさわしい身だしなみでの受講が前提となる。また、学生自らが主導してプログラムを計画、実践、ふりかえりの活動を設けたことで、実地実習までに人前に立って集団を動かすという実践の機会を大切にしたい。

## 2 アンケート結果に対する見解

前期の後半(7月あたり)は、気温も上がり、体育館での実技は授業時間によっては厳しい場合もあったため、「暑すぎる」というコメントは納得である。教育実習などでは、屋外での活動も求められるため、ある程度は暑さに慣れておくことや、へばらない程度の体力は必要であるが、ウォータークーラーの設置や、扇風機の台数を増やすことなど、環境面のサポートは必要だと考える。授業の理解に役立つような資料は、特に重要な部分のみ作成し、その他はノートに記述するように促した。しかし、積極的にノートにまとめる学生は僅かであったことから、授業展開に工夫が必要だと感じた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

幼児期の運動の意味や大切にすることなど、伝えるべき事柄については実践を通して伝達できたと考える。成績評価基準としては、出席点および取り組む姿勢とレポート課題をもって評価した。それぞれを点数化し、出席が足りているかどうか、課題が提出されているかどうか、を最低ラインとして単位認定とした。

## 4 授業改善の方法

身体を動かす授業であるため、初回で実技授業のルールをしっかり伝え、安全面について徹底して注意する。暑い時期にどのような活動をもってするのが良いかを再考し、なるべく過度に激しい活動とならないように配慮する。また、知識の定着を図るために、小テストなども検討する。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 中園 大三郎 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 特別活動の指導法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53060 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.44		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 22.2%	60分 程度 11.1%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 22.2%	30分 程度 44.4%	ほとんど していない 22.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 44.4%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.33		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 11.1%	ある程度 注意 していた 44.4%	あまり 注意して いなかった 11.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.78		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.11		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.78		■				

## 1 授業の概要、特徴等

近年、子ども達の人間関係の希薄さや体験活動の乏しさ等が社会問題となっていることを踏まえ、特別活動の目標である望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図り、よりよい生活や人間関係等を自主的・実践的に築く態度の育成を目指す指導法の理論と実践を深めてきた。授業では、アクティブ・ラーニングの導入、学生同士の意見発表や演習を積極的に取り入れた。学生の意見発表は研究冊子にまとめ全員に配付し、学修成果を共有・確認すると共に、教育現場で活用できるようにした。

## 2 アンケート結果に対する見解

毎時の始めに提示する授業目標の達成を目指し、多様な指導方法を導入し、学生の自主性を発揮できる場の工夫などにより、授業内容の理解を深めた。授業後に行う学生の自己評価の理解度や感想を次時に生かしてきたことにより、学生とは本授業の内容や方法について、また、信頼関係等を共有することができたと感じており、その結果がアンケートに表れている。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業では、毎時の目標を達成するため、学生自ら主体的な学修姿勢が発揮できるような指導内容や方法の工夫に努めてきた。成績評価基準についても、年度当初に分かりやすく説明し、いくつかの評価観点の総合評価であることや、真摯な学修姿勢を含めて単位を認定してきた。その結果、成績評価については適切であったと判断している。

## 4 授業改善の方法

本授業は1単位の科目で指導時間が限られているため、多くの指導内容をより厳選し、より質の高い授業の創造に努める。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 安永 龍子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 保育(健康) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53100ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 78名 **回答者数** : 64名

回答者内訳	学年				学科・コース					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース			
	-	64	-	-	-	-	-	64	-	-

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.92		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 1.6%	90分程度 -	60分程度 9.4%	30分程度 15.6%	ほとんどしていない 73.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 1.6%	90分程度 -	60分程度 6.3%	30分程度 20.3%	ほとんどしていない 71.9%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.33		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 4.7%	やや高かった 40.6%	適切であった 53.1%	やや低かった 1.6%	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.91		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 10.9%	注意していた 56.3%	ある程度注意していた 31.3%	あまり注意しなかった -	全く注意しなかった 1.6%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.84		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.87		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.27		■				

## 1 授業の概要、特徴等

領域「健康」のねらいと内容を理解し、保育者として子どもの健康を促す活動を学習する。社会で起こっている子どもの健康を阻害している事柄や子どもの健康を守るための日常生活活動を理解する。また自分自身の健康を守る日常生活についても考えられるようにする。

## 2 アンケート結果に対する見解

授業内容では、プリントなどの教材が授業理解に役立ったと答えた学生が約90%あったが、昨年同様にDVDなどの視聴覚教材を使うと分かりやすいという意見があった。DVD教材の活用を検討しながらも、適切な教材がなく今年度の授業を展開したので、来年度はDVD教材を活用し、より分かりやすい授業内容にしていきたい。授業形態としては講義形式がほとんどであり、自由記載にもあるようにGWや演習を増やしてほしいとの意見もありことから、このことを検討していきたい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生は78名で、単位認定できない学生が5名いた。成績評価は、16回目の定期試験と受講態度によって評価した。追試験者が2名(寝坊が理由とのこと)、再試験者は22名であった。特別指導を行い、追再試験を実施した。試験欠席した学生1名を含めて単位認定できなかった学生は5名であった。

## 4 授業改善の方法

・DVDなど視聴覚教材の検討 ・GWなどの演習形態の授業展開の検討



# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 増井 啓子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 保育表現演習 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53166abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 60名 **回答者数** : 47名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	45	-	2	-	-	-	44	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.36		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.1%	90分 程度 -	60分 程度 4.3%	30分 程度 17.0%	ほとんど していない 76.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.1%	90分 程度 -	60分 程度 2.1%	30分 程度 19.1%	ほとんど していない 76.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.72		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.9%	やや 高かった 12.8%	適切 であった 72.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.79		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 25.5%	注意 していた 70.2%	ある程度 注意 していた 4.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.70		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.68		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.81		■				

## 1 授業の概要、特徴等

幼稚園教育要領、保育所保育指針において保育内容「表現」とし設定されている。子どもは自分の思いや感じたこと、心の動きなどを自分なりに表現する。表現する経験を重ねることでイメージが膨らみ豊かな感性へとつながっていく。授業では乳幼児発達と表現の捉え方を学び、乳幼児の表現を支える育む環境の構成や援助の方法を自ら考えることができるようにする。また、子どもたちの大事な時期にかかわる保育者として、保育者自身の表現力が子どもの表現力に大きくかかわるものであるから、自分自身の表現力も見直し、豊かにしていくことを目指す。

## 2 アンケート結果に対する見解

演習科目であるため、学生自身が主体的に考えたり、活動したりする時間をできるだけ多くもった。また、すべての学生が活動に取り組めるように具体的でわかりやすい指示を意識した。身体的活動や音楽的活動(歌う、踊る、リズムに合わせる)造形活動(身近な素材を使って作る、描く、環境を構成する)など保育技術にかかわる教材についても取り入れた。資料を適宜配布し表現をつくり出す喜びや楽しみにつなげた。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業への参加態度・演習取組態度(20%) 表現に対する発表(50%) レポートや作品などの課題提出物(30%)

## 4 授業改善の方法

授業を受ける人数の割に講義の部屋が狭いため毎回、机や椅子の補充が必要であり、場の設定を考えていく必要がある。特に保育の中で実際に展開していく活動となると場の構成が難しい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53141af・be **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	8	-	-	-	-	-	7	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.25		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 25.0%	60分 程度 25.0%	30分 程度 37.5%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 37.5%	60分 程度 12.5%	30分 程度 37.5%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.75		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.63		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 25.0%	注意 していた 75.0%	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.63		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.88		■				

## 1 授業の概要、特徴等

ML教室を使用した集団授業45分と個人レッスン(各自の持ち時間以外はフォローアップ授業に参加)45分で構成される。ML集団授業で、伴奏に必要なカデンツを習熟し、個人レッスンで、カデンツを応用した伴奏づけの仕方を学んで子供の歌を弾き歌いする。特に個人レッスンでは、個々の能力に合わせた、きめ細やかな指導が可能である。さらにフォローアップ授業では、発声練習や歌唱、合奏、手遊び、鑑賞等を行う。90分をフルに生かせる授業構成と言える。

## 2 アンケート結果に対する見解

1週間あたりの平均学習時間が約1時間と読み取れる。この長さからは、おそらく毎日は練習できていない実態がうかがえる。他の課題や補講で忙しいことも理解できる。しかしながら、実技教科の性格上、練習時間の確保は必要不可欠なことなので、さらに叱咤激励したい。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

子供の歌に適切な伴奏をつけて弾き歌いできることを目標とする。楽曲レベルに応じて定められたグレード1～5の2までを最低限取得し、弾き歌いによる発表会で合格ラインに達することが、単位認定には必要である。成績評価には、グレード進捗度や平常点も加算される。

## 4 授業改善の方法

集団授業では、ML教室での個人練習の時間を時期によって加減したり、フォローアップの時間に、時に応じて「音楽」を享受できる工夫をするなど、臨機応変に取り組んでゆきたい。また、個人レッスンでは、授業で扱える曲数は限られているので、応用力につながる日々の指導を心掛けたい。

# 教員による授業アンケート (2016年度 前期)

**教員名** : 園部 勝章 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科  
**科目名称** : 理科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目  
**授業コード** : 53025 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	7	-	1	-	-	-	8	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.38		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 -	60分 程度 12.5%	30分 程度 37.5%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 -	60分 程度 12.5%	30分 程度 37.5%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.63		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 12.5%	やや 高かった 12.5%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.63		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 12.5%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった 12.5%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.75		■ ◆				

## 1 授業の概要、特徴等

小学校理科の授業に関する①目的(教育観・教材観)②子どものために果たす役割(子ども観)③授業を行うための指導案づくりと授業づくり(授業観)を学ぶための「理科教育法」です。1時間の授業の流れは、①身近な植物紹介や星空紹介②授業のテーマ③先週の200字感想紹介④テーマに沿った授業内容を授業者・学生で検討⑤テーマに沿った実験⑥200字感想書きでした。

## 2 アンケート結果に対する見解

「酸とアルカリ」での授業での「リトマス紙」を見て、学生たちが「なつかしい」と語ってくれていた。小学校時代での理科の授業を思い起こすことができたように、小学校6年間での自然にかかわる学びを土台にした授業であると言えるので、「自分の将来に役立つ」という感想を書いていたのだと思います。また、学生が理科学習指導案づくりにも積極的にとりこんでくれ、授業者も楽しく授業づくりをすることができました。

## 3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

定期試験40% 試験内容: 小学校理科に関わる学習指導要領の記述 小学校理科の基礎的な内容(物理・化学・生物・地学)に関わる問題 小学校理科の学習指導案づくり(事前に各自が用意をした指導案を記述) 授業態度20% 出席回数で点数化 レポート20% 毎回の授業での200字感想への評価(評定) プレゼンテーション20% 学習指導案を発表した回数や内容で評定

## 4 授業改善の方法

① 理科学習指導案づくりができるようにしておきたい。そのために、教育観・授業観・子ども観を確立できるようにさせる授業づくりをしていきたい。 ② 学生が、小学校6年間の生活や理科の授業を生かすことができるようにしていきたい。 ③ 学生のもっている思いを引き出せる授業づくりをしたい。

